

聖徒の道

9
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会



聖徒の道



表紙

写真/スティーブ・バンダーソン；挿入写真/マイケル・バーン・ドーン
「より良いホームティーチャー、訪問教師となるには」34ページ参照

こどものページ

写真/スティーブ・バンダーソン 「分かち合いの時間—おいのり」
12ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ—「そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」
第二副管長 ジェームス・E・ファウスト
- 7 わたしを救してくれませんか？ パトリシア・H・モレル
- 8 二度目のバプテスマ 陳家森^{チェンジャシエン}、マイケル・J・ベアマン
- 16 生ける預言者の言葉
- 18 「あなたは殺してはならない」 アーサー・R・バセット
- 25 家庭訪問メッセージ—わたしの聖日に聖式をささげなさい
- 32 わたしの手のうちにあった神権 フーコ・レイ
- 34 より良いホームティーチャー、訪問教師となるには
ケリーン・リックス・アダムス
- 46 エスターからの最後の贈り物 ベス・デイリー



青少年

- 10 チャレンジにこたえるアルゼンチンの青少年たち
ディエーン・ウォーカー
- 24 わたしを助けて、導いて ティファニー・ロックヤー
- 26 雲の向こう クラウディア・アパレシダ・アシス・アウグスト
- 28 ほほえむべき理由 七十人会長会 ジョー・J・クリスチャンセン

こどものページ

- 2 ボールを落とさないように 大管長^{だいかんちょう} ゴードン・B・ヒンクレー
- 4 ヨナとニネベの人びと^{ひと} ビビアン・ポールセン
- 6 せかいのお友だち^{とも}
- 8 わたしはだれでしょう—『モルモン書』クイズ
- 10 お父さんの愛^{あい} ジャッキー・ヨハンセン
- 12 分かち合いの時間^{わかちあひのじかん}—おいのり シドニー・レイノルズ
- 14 タイラーの名札^{なふだ} パトリシア・ウォーノック作

18ページ参照



こどものページ、4ページ参照



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。
隔月刊—インドネシア語、タイ語。
季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴースリンド
顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン
教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミツェル
編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド
工程管理：ベス・デーリー
出版補佐：コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・パン・カンペン
デザイナー主任：シェリー・クック
制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、ジェーン・L・マンフォード、タッド・R・ピーターソン

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「『聖徒の道』 予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ—〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines September, 1998, Japanese, 98989 300

September 1998 no. 9. SEITO NO MICHII (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



美しい描写

1997年8月号の『リアホナ』(ポルトガル語版)、とりわけ「布につづる時の流れ」という記事を読んでいて、掲載されている写真や芸術作品にはすばらしい影響力があることを実感しました。また、教会から出版されている書籍や手引き、教授用資料、そして機関誌に掲載されるイラストを手がけている霊的で才能あふれるの方々に感謝しています。

ブラジル・サンベルナルドステーク、
バエタネベスワード
ジュリアナ・オリベラ・ジュスティ

伝道地の言語で

教会は実にたくさんの言語で機関誌を出版しており、数多くの天の御父の子供たちが御自身の僕や預言者のメッセージを受け取れるようになりました。そのことを天の御父に心から感謝しています。

何より、「リユース・オーベル・ノルゲ」(ノルウェー語版。「ノルウェーの光」の意)を購読できることに感謝しています。ノルウェー・オスロ伝道部で学んだ言葉でこれらの重要なメッセージを読むことができるからです。カリフォルニア・ベンチュラステーク、ベンチュラ第1ワード
アルマンド・ガルシア・マルチネス

(注— 教会の国際機関誌は31の言語で出版されており、世界中のどの地域にでも配送することができます。このページの左上の欄に、出版されている言語のリストがあります。その中から購読したい言語があれば、自国の教会管理本部配送センターにお問い合わせください。)

最良の決定

『リアホナ』(スペイン語版)を予約購読することは、これまでわたしの下した決定で最良のものの一つです。『リアホナ』から学んで得たものはわたしにとってすばらしい祝福となっています。

中でも、1997年8月号のゴードン・B・ヒンクレー大管長の「大管長会メッセージにはとても感謝しています。そのメッセージのおかげで、人生の意義や幸福に至る道について、もっとよく理解できるようになったからです。

エクアドル・ヒビハバ地方部
ヒビハバ第1支部
ミルドレッド・I・トウンバコ・ソリス

霊的な疲れを克服する

教会員になって4年が過ぎたころ、信仰がどれだけ強くても、だれもが霊的な疲れに苦しむことを知りました。そんなときわたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿の中で、どうしたら自分自身の霊的な疲れを克服できるかを学びました。神殿でわたしは、自分がどこから来て、どこに行こうとしているのかを学んだのです。スイス・ジュネーブステーク、フリブール支部
パスカル・フェリックス・ムボロジ・キアマーナ



「そして真理は、あなたがたに 自由を得させるであろう」ヨハネ8:32

第二副管長
ジェームス・E・ファウスト

ピラトは「真理とは何か」（ヨハネ18：38）と問いかけています。
これは、人類が長い間、尋ね求めてきた問題です。すべての男
女には真理を見いだす責任があります。

もう一つ大切な問題となるのは、「真理をどこで見つけたらよいか」という
ことでしょう。次の話は、その答えに至る手がかりとなるでしょう。

昔、ペルシャにアリ・ハフィッドという畑や果樹園、土地を数多く所有し
ている大地主がいました。彼は金貸しもしていました。すばらしい家族にも
恵まれ、「満ち足りた毎日を送っていました。お金に困るこ
ともなかったから満ち足りた生活ができたし、満ち足りた生
活をするからまたお金もたまっていくという状態でした。」

ある日、一人の年老いた祭司がアリ・ハフィッドのところに来て、
親指くらいのダイヤモンドがあれば、今持っているよりはるかに広大な土
地を買うことができるだろうと言いました。アリは尋ねました。「そのダイヤ
モンドをどこで見つけることができるか教えてください。」

祭司は言いました。「高い山の間を流れる川の白い砂地の所を探しなさい。
その白い砂の中に、きっとダイヤモンドがあるでしょう。」



イエス・キリストの福音が
回復され、それに伴って
いろいろな事柄が明らかに
されたのは、14歳の少年
ジョセフ・スミスが
次の言葉に導かれて真理を
尋ね求めたからです。
「あなたがたのうち、知恵に
不足している者があれば、
その人は、
とがめもせずに惜しみなく
すべての人に与える神に、
願い求めるがよい。
そうすれば、
与えられるであろう。」
(ヤコブの手紙1：5)

「それじゃ、さっそく探してみよう。」アリは決心しました。

アリは自分の農園を売り、貸していたお金を集め、家族の世話を隣人に頼んで、ダイヤモンドを探しに出かけました。アリは方々の地を巡って旅を続けました。

一方、アリの農園を買った人があるとき、農地内でらくだに水をやっていた。らくだが浅瀬に鼻をつけて水を飲もうとしたとき、その男は流れの底に何か不思議な光を放つものがあるのに気がつきました。水の中から拾い上げてみると、黒い石の表面がきらきらと輝いているのです。それから間もなく、この男の家を訪れたあの老祭司は、黒い石の中で光を放つものがダイヤモンドであることを知りました。二人は農園に飛び出し、指で白い砂をかき分け、無数の美しい高価な宝石を手にしたのです。これが古代史上最大のダイヤモンド鉱山と言われるゴルコンダ鉱山の始まりです。そのようなわけで、もしアリ・ハフィッドが見知らぬ地を旅するよりも自分の家において地下室か畑のどこかでも掘っていれば、無数のダイヤモンドを見つけることができたでしょう。(ラッセル・H・コンウェル、Acres of Diamonds『無数のダイヤモンド』4-8より翻案)

真理の探究もアリ・ハフィッドがダイヤモンドを探しに出かけたことと似ているところがあります。真理はどこか遠方の地ではなく、わたしたちの足もとにあるのです。ウインストン・チャーチルは、かつてこう語りました。「人は時として偶然としか思えないような真理との出会いを経験する。しかしほとんどの人がそのことに気づかず、何事もなかったかのように、また慌ただしい生活を続ける。」(The Irrepressible Churchill Stories『心に残るチャーチル物語』ケイ・ヘイル編、113に引用)

歴史上最も重大な裁判の一つは、ソクラテスの裁判でしょう。アテネの法廷で彼が有罪を宣告された理由は二つありました。一つ目は、ソクラテスが無神論者であり、国が礼拝するよう定めた神を信じなかったからです。二つ目は、ソクラテスが若者たちに、アテネ社会を牛耳っている賢者と呼ばれる人たちの言うことが真実なのかどうか自分自身で吟味してみるよう扇動したという罪状でした。それが、「若者たちを墮落させた」というのです。

ソクラテスは陪審員の多数決によって有罪となり、毒殺の刑を言い渡されました。

真理に到達するという点に関して教会の指導者は、自分の力で考え、真理を探し求めるよう人々に勧めています。人はよく考え、研究し、検討したうえで、自分の良心の導くままに神の御霊によって真理を知るようにならなければなりません。

ブリガム・ヤングは次のように述べています。「わたしは、この民が指導者をあまりにも信頼しすぎて、自分たちが神によって導かれているかどうか自分自身で神に尋ねようとしなくなることを、ことのほか憂慮しています。わたしは彼らが、盲目的な自己保全の状態の中に安住してしまうことを怖れています。……男女を問わずすべての人々は、神の御霊のささやきによって、指導者が主の導かれる道を歩んでいるかどうか自分自身で知るように努力しなければなりません。」(Discourses of Brigham Young『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィットソー編、135) このようにすれば、いかなる人も欺かれることはないでしょう。

探し求めることは、その真理が霊的なものであれ、科学的なものであれ、あるいは道徳的なものであれ、すべての真理を知る鍵です。イエス・キリストの福音が回復され、それに伴っていろいろな事柄が明らかにされたのは、14歳の少年ジョセフ・スミスが次の言葉に導かれて真理を尋ね求めたからです。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5)

長い間の法廷での経験を通して、公正さを得るという意味での真理は、徹底的にそれを追究することによってのみ到達し得ることをわたしは学びました。

教会員は、良書はもとより、あらゆる有益なものから学問を求めるように勧められています。なぜなら、「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである」(信仰簡条1:13)とあるからです。



「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」

シバの女王はソロモンの名声を聞き、その評判の知恵と大いなる富、豪華な邸宅がうわさに違わぬものかどうかを見るために、ソロモンのもとを訪れました。『聖書』には、「難問をもってソロモンを試みよう」と（歴代下9：1）したと記されています。シバの女王はソロモンの答に満足を覚え、次のように言っています。「わたしが国であなたの事と、あなたの知恵について聞いたうわさは真実でした。」（歴代下9：5）

だれもが一度は考え、そして自分でその答えを見いださなければならない根本的な問いについてアミュレクは『モルモン書』の中でこう述べています。「そしてわたしたちは、その御言葉が神の御子の内にあるのかどうか、キリストが将来降臨されるのかどうかという大きな疑問が、あなたがたの心の中にあることが分かった。」（アルマ34：5）

しかし尋ね求める人々の中には、真理を求めないで論争に走る人がいます。誠実に学問を求めようとせずに、議論をすることを望み、見せかけの学問を誇示し、争いを起こそうとするのです。パウロはテモテにあてた手紙の中でこう言っています。「愚かで無知な論議をやめなさい。それは、あなたが知っているとおおり、ただ争いに終るだけである。」（2テモテ2：23）

わたしたちは皆、選択の自由を持っています。したがって、主からの靈感、善と悪、真理と偽りを見分けて最終的な決定を下すのは、わたしたち一人一人の責任なのです。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長（1871-1961年）は次のように語っています。「教会員は、中央幹部が語る言葉が『聖霊に感じるままに』語られた言葉かどうかを聖霊の証を通して知るでしょう。そして定められた時になれば、その知識は明らかにされるはずです。」

"When Are Church Leader's Words Entitled to Claim of Scripture?" *Church News* 「教会の指導者の言葉は、いつ聖文と見なされるか」『チャーチニュース』1954年7月31日付、10) 人は皆、もし従ったなら最大の幸福を産み出

神の御霊の導きによって熱心に求める人々は、
聖霊を伴侶とできるだけでなく、
真理を求める人々の助けも受けることができます。



写真/ロンジン・ロンチナ・ジュニア

す価値について、それを受け入れるかあるいは捨てるかを選択しなければならないのです。

「真理とは何か」というピラトの問いかけについて考えるとき、フランシス・ベーコンの次の言葉を参考にしてみてください。「真理には3つの領域がある。一つは疑問を持つこと、すなわち尋ね求めることである。次に、知ること、すなわち存在を認めることである。第3に、信じること、すなわちそれを楽しむことである。」("Of Truth" 「真理について」エッセー集、18に引用)

ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)は、あらゆる機会をとらえて、教会の指導者に、時間を取って心によく思い計るように、世事を離れてよく自己を評価するように勧告してきました。この賢明な勧告は、わたしたちすべてにとっても意義あるものです。

わたしたち一人一人が知識と真理に到達する鍵は、『教義と聖約』の第9章に記されています。そこには、心の中でよく思い計り、それが正しいかどうか主に尋ねるなら、主はその人の胸を内から燃やし、それが正しいと感じさせてくださる、と約束されています(教義と聖約9:8参照)。

数多くの事実を集めることは非常に有益で効果のあることですが、そこでも探究心を忘れてはなりません。ヘンリー・アルフォードはこう述べています。「真理は精緻で寸分の狂いもない部分から成り立っているものではなく、全体として正しい印象を伝えるものである。そこには単なる事実が語る以上の真理の広がりがある。詩篇の作者は、『人々があなたのおきてを守らないので、わが目の涙は川のように流れます』(詩篇119:136参照)と記している。作者はここで事実を述べてはいないが、事実以上に深い真理を述べている。」

神の御霊の導きによって熱心に求める人々は、聖霊を伴侶とできるだけでなく、真理を求める人々の助けも受けることができます。トーマス・カーライルは次のように述べています。「わたしたちの心の中から出てくる純粋な真理には、真理を愛するすべての人々の心を魅了す

るものがあることを、わたしは知っている。」

真理について述べられた救い主の言葉ほど偉大なものはないでしょう。「また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ8:32) さらに救い主はこう続けておられます。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」(ヨハネ14:6) 「だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける。」(ヨハネ18:37)

自分をより向上させようと努力している人はだれでも、謙遜に正直に尋ね求め、自分の思いと知識、そして生活の中でどこに真理があるか見極めなければなりません。わたしたち一人一人が、心して神の真理を探し求め、愛と真理をもってそれらの真理に従った生活を雄々しく送れますように。

ホームティーチャーへの提案

1. 「真理とは何か」「真理をどこで見つけたらよいか」これは、すべての人が生活の中で折に触れ尋ね求めてきた重要な問題である。
2. わたしたち一人一人がこれらの問題に答えを見いだせるよう、教会の指導者は、よく考え、研究し、検討したうえで、神の御霊によって導きを受けることを勧めている。
3. 神の御霊の導きによって熱心に求める人々は、聖霊を伴侶とできるだけでなく、真理を求める人々の助けも受けることができる。
4. 「[真理]の御言葉が神の御子の内にあるのかどうか、キリストが将来降臨されるのかどうか」(アルマ34:5)これは、だれもがいづれ自分自身で答えを見いださなければならない根本的な問いである。
5. 謙遜で正直な真理の探求には、本質的に、自分の心と思いを傾け、日々の生活を通じて尋ね求める態度が要求される。

わたしを救してくれませんか？

パトリア・H・モレル

ある夏の日、何げなく窓の外を見ると、わたしにとって敵とも言える彼女が通りを歩いてこちらに来るのが見えました。わたしは彼女のそばに行くことに気は進みませんでしたが、これはいい機会でした。今しかないと思いました。玄関を飛び出したとき、胃はむかむかし、心臓の鼓動は高鳴り、全身が震えました。

お互いの敵対心は、子供をかばおうとする母性本能から来るささいな出来事に端を発していました。わたしの息子が彼女の息子とけんかをしたとき、彼女は我が家に話をしに来ました。でもわたしには、彼女から息子のしつけ方を押しつけられているように感じられました。子供たちはすぐに仲直りしたのですが、母親たちはそうはいきませんでした。

それから何週間かして、彼女がわたしのことを批判していたという話を、複数の隣人から聞くようになりました。わたしは深く傷つきました。やがて、わたしも彼女への批判めいた話を人々にするようになりました。わたしたちは、お互いを避けるために大変な努力を払い、通りを歩くときでさえ、反対側を通るようになりました。その争いは2年の長きにわたりました。

ある日、ひざまずいて祈っていると、もしわたしがこの隣人に対して悪感情を抱き続けるかぎり、御霊がわたしに宿ることはない、という強い思いに駆られました。今まで自分がこの憎しみを増大させ、その憎しみがわたしの霊をじわじわとむしばんでいたことに気づいたのです。

わたしにとって、天の御父と御霊を近く感じることは、どうしても必要でした。そのためにも、大いに悔い改める必要がありました。断食をし、お互いの悪感情に終止符を打てるよう助けを求めて祈りました。これまでのことを改める機会が必要だったのです。

ついに、祈りが聞き届けられたようでした。わたしはありったけの勇気を振り絞って、玄関を飛び出して行き、彼女の肩をつかみました。彼女は驚いた様子で、わたしを見詰めました。出し抜けにわたしは、「お願いだから、どうかわたしを救ってください。もう一度、友達に戻れるかどうかは分からないし、これからあなたがどうするのかも分からないけど、もう決して、あなたの

悪口を言わないと約束するわ。あなたを敵だなんて、もう思わない。」

その後起きたことは、言葉では言い尽くせません。心地よい主の御霊がわたしたち二人を包みました。わたしたちが抱き合うと、これまでの苦々しい思いは解けていきました。二人とも泣きながら抱き合い、そして笑いました。

愛と喜びと平安はほんとうにすばらしい祝福です。どうしてわたしは、これほど長い間、自分の心を縛り、霊的な力をむしばむような怒りと悪感情の重荷を引きずる方を選んできたのだろう、と思ったほどです。わたしは喜んで約束し、二人はまた友達になりました。その後、わたしはその町から引っ越しましたが、あのかけがえない夏の日に学んだ救いと、愛の教訓について忘れたことはありません。□



二度目のノバプテスマ

チェンジャセシエン
陳家森がマイケル・J・ベアマンに語った言葉を基に編集

写真/マイケル・J・ベアマンの厚意により掲載

中国に生まれ育ったわたしは、祖国の軍隊に入隊しました。その後、台湾に住んでいた時期に、イエス・キリストについて学ぶ機会があり、北ヨーロッパ出身のプロテスタントの宣教師によってバプテスマを受けました。その後42年にわたって、わたしはキリスト教の熱心な信者であり、また、自分の所属する教会で指導者を務めていました。

クリスチャンとしての信仰を保ち続けてはいましたが、次第に自分の教会に魅力を感じられなくなり、どこか別のところに真理を求め始めていました。ですから1993年9月、二人の末日聖徒の宣教師が我が家のドアをノックしたとき、わたしは喜んで二人を招き入れました。ネルソン姉妹とショウ姉妹は、『モルモン書』に記されたメッセージについて説明し、わたしに1冊の『モルモン書』をくれました。けれども「モルモン」の教会に対する非難を度々耳にしていたため、わたしの心は迷いました。姉妹たちは、わたしの不安を消し去るために、2時間も費やしてくれました。

姉妹たちは、次に訪れたときに、一緒に^{せいさん}聖餐会に行きましょうと誘ってくれました。9月の終わりにわたしは初めて、^{ランタントウエン}龍潭桃園にある集会所用の賃貸建物に足を踏み入れました。そしてモルモンの教会の人たちも『聖書』を信じていることを知って驚きました。そこでわたしは集会の合間に自分の聖典を取りに急いで家に帰りました。

その次の日曜日に、姉妹たちが再び訪ねて来ましたが、今度は、ローザー長老とベアマン長老という二人の若者が一緒でした。長老たちは、最初に、どの教会に入るべきか尋ねる祈りにこたえて、天父と御子がジョセフ・スミスに姿を現されたことについて話しました。そして、その出来事に関連して記されたものをいろいろと声に出して読みました。その中には、次の聖句が含まれていました。

「すると、それらの〔現存する教会の〕どれにも加わってはならない、すべて間違っているからである、とのお答えであった。また、わたしに話しかけられた御方は、彼らの信条はことごとくその目に忌まわしいものであり、信仰を告白するそれらの者たちはすべて腐敗しており、『彼らは唇をもってわたしに近づくが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人の戒めを教義として

教え、神を敬うさまをするけれども神の力を否定している』と言われた。」(ジョセフ・スミスー歴史1:19)

これらの言葉は、わたしの心の奥深くで鳴り響くようでした。そして御霊を心に強く感じました。わたしは聖文から目を上げると、^{ひとこと}だた一言、こう言いました。「これは真実ですね。」

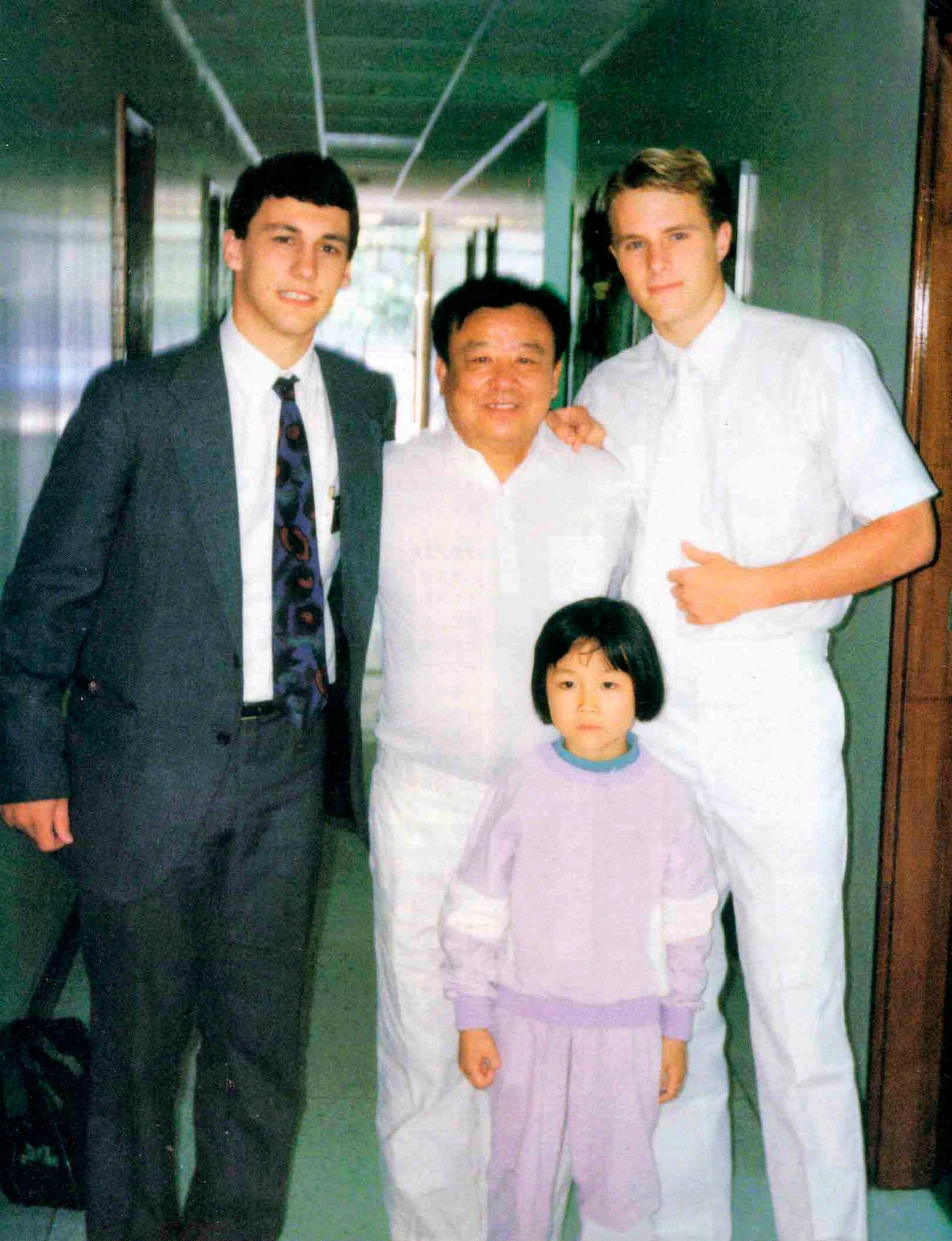
次に長老たちが教えてくれたことは、背教、教会の回復、そして神権の権能の回復でした。けれど、バプテスマを受けるように勧められたとき、わたしは非常に驚きました。何十年も前に、すでに浸礼によってバプテスマを受けていたからです。もう一度バプテスマを受け直すことは必要ないという思いがありました。バプテスマを受け直すことが、これまでの自分の信仰に対する裏切りのように感じられたのです。

「権能を持つ人からバプテスマを受けることの重要性を知るためにどうぞ祈ってください。」長老たちはそう言うのと、帰って行きました。そしてわたしには知らせずに、長老たちはその日から断食を始め、正しい権能によるバプテスマの重要性を理解できるようにと、わたしのために祈ってくれたのでした。

次に会ったとき、バプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりたいと告げると、長老たちは、驚き、とても喜んでくれました。その日、わたしの霊は喜びで満たされました。「神がわたしの祈りにこたえてくださいました。」わたしは言いました。「バプテスマを受けることが神の御心であると理解できたのです。」長老たちは心を躍らせながら計画を進め、1993年11月14日にバプテスマの儀式を行うことが決まりました。

バプテスマフォントの水に入り、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として確認を受けることは、すばらしく崇高な経験となりました。その日の儀式がすべて終わったとき、わたしはどのように感じているかを長老たちに伝えました。「わたしは40年以上もずっと主とともに歩んできました。そして、今日ついに^{きょう}主の教会の会員になることができたのです。」□

チェンジャセシエン
陳家森兄弟(中央)の幸福に満ちたバプテスマの日。娘と専任宣教師のベアマン長老(左)、ローザー長老とともに。



チャレンジにこたえる アルゼンチンの青少年たち

ディエーン・ウォーカー
写真・特に表記のないかぎり、著者撮影
背景写真／ネストル・カルベロ

小 冊子『若人のために』の中で、大管長は教会の若人の一つのチャレンジを与えています。「皆さんはこの時代に生を受くべく備えておかれたえり抜き
の霊です。この時代には非常に大きな誘惑がありますが、その一方皆さんの前にはすばらしい責任と機会があります。…
…自分が正しい生活をするだけでなく、同じ年代の人たちに模範を示すべき時なのです。」

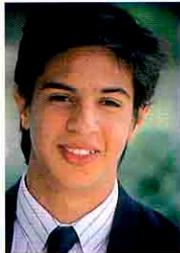
アルゼンチンの若い末日聖徒たちは、教会、セミナリークラス、学校の様々な活動、自分たちの家庭において、このチャレンジを真剣に受け止めています。

ブエノスアイレスの青少年

アルゼンチンを訪れた旅行者たちは、空港からブエノスアイレスの市街地へ車で向かう途中、美しいブエノスアイレス神殿に目を奪われます。この交通量の多い道路から少し離れた所にあるブエノスアイレス神殿は、街を見守るかのよう
にそびえています。しかし、ほとんどの旅行者はそれが1986年に奉獻されて以来、アルゼンチンの末日聖徒に守りを与えて
きていることを知りません。それは、老若を問わず、教会の会員にとって、神聖で美しいものの象徴となっています。

土曜日の午前中には、死者のためのバプテスマを行うために、周辺の地域の若者のグループがしばしば神殿にやっ
て来ます。ブエノスアイレスの市内に住んでいるからといって、神殿に簡単に行けるとは限りません。街自体が非常に広いた
めに、神殿までかなり離れている場合が多いのです。しかし、アルゼンチンのブエノスアイレス・カステラステーク、カ
ステラワードからやって来る若い男性や女性は、自分たちはとてもラッキーだと考えています。彼らの地域は神殿に近く、
月に1度はバプテスマのために神殿に来ようと努力しているのです。彼らが自分たちの体験と、成長する証^{あかし}について話
してくれました。

ビクトル・ゴロシト, 17歳



アルゼンチン・ブエノスアイレス・カステラステーク、カステラワード

「神殿に初めて行ったときのことは、いつまでも忘れられません。着いたのは夜でした。ハイウェイから降り、神殿の所に来て、ライトアップされた神殿を見たとき、とてもきれいな眺めでした。神殿に入ると、御^{みたま}霊をととても強く感じることができました。そして教会が真実だと分かりました。神殿に行く度に証が強くなります。」ビクトル・ゴロシト

「神殿に行くのは、素晴らしいことです。亡くなった人たちのためにバプテスマを受けられるんですからね。その人たちは、わたしがバプテスマを受けることによって、福音のいろいろな祝福にあずかることができます。自分が善いことをしているということと、天の御父がそのことを喜んでくださっているということが分かるので、御霊を感じることができます。」ベネサ・レイ

ベネサ・レイ, 17歳



アルゼンチン・ブエノスアイレス・カステラステーク、カステラワード

「ぼくは6か月前に初めて神殿に行きました。とても美しい所だと思いました。できるかぎり何度も神殿に行って、バプテスマができるように努力しています。」エンソ・コメルシ

エンソ・コメルシ, 13歳



アルゼンチン・ブエノスアイレス・カステラステーク、カステラワード

「ヒンクレー大管長がブエノスアイレスに来たとき、ぼくもサッカースタジアムで開かれた大会に出席し、お話を聞きました。大会を閉じるに当たって、ヒンクレー大管長と出席した人たちが白いハンカチを握って別れのあいさつをするのを見たときに感じたすばらしい気持ちをぼくは決して忘れないでしょう。」ファン・ガブリエル・バリオヌエボ

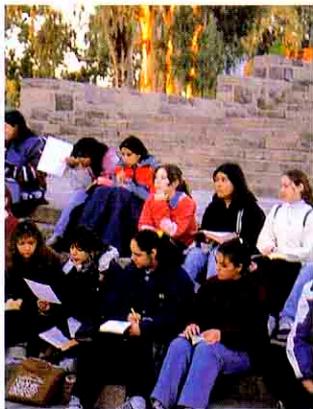
ファン・ガブリエル・バリオヌエボ, 12歳



アルゼンチン・ブエノスアイレス・カステラステーク、カステラワード



アルゼンチン・ブエノスアイレス
神殿の外でポーズを取る
カステラワードの
若い男性と若い女性のグループ



セロ・デ・ラ・グロリアで
開いた早朝集會に集った
メンドサの
セミナーの生徒たち

メンドサの青少年

4つのワードのセミナーの生徒たちが、静かに自分たちの家を出て、夜明け前の静かな暗闇の中に出て行きます。秋の空気はまだまだ冷たく、彼らは自分たちを待っている暖かな車の中に駆け込みます。車の中の座席の半分は、眠そうな顔をした10代の若者と指導者で埋まっています。街に夜明けが来るまでは、まだ2時間はかかります。末日聖徒の青少年を乗せた車と並んで走っているのは、貨物便のトラックや通勤の車だけです。セミナーの生徒たちを乗せたその車は、市街地を出て、蛇のように曲りくねった道路を上り、「栄光の丘」という意味のセロ・デ・ラ・グロリアという場所へ向かいます。

彼らとその山の頂上に着くころには、東の水平線の辺りは、オレンジとピンクの色が混じってかすかな光が見え始めます。しかし「栄光の丘」はまだその美しさを闇の中に秘めています。夜明け前の淡い光の中で、生徒たちは賛美歌を歌い、祈りをささげ、その日の聖文の勉強を始めます。そうこうしているうちに、闇の中から美しい景色が姿を現し始めます。赤とオレンジの光の筋が空に広がっていき、それとともに、太陽が山上のセミナークラスを囲むすばらしい大自然の姿を明らかにしていきます。西に見えるアンデスの荘厳な山並みとメンドサの町を囲むようにしてはるか東のかなたまで広がる大平原は、創造主の輝かしい御業を示しています。

ふだんのクラスとはまったく違う、この大自然の懐の中で、アルゼンチンのメンドサの若い男性と女性たちは、日々のチャレンジに立ち向かうための霊的な糧と力を与えられます。太陽が高く昇るにつれ、生徒たちの頭の中には、下界に待ち受ける様々なチャレンジや問題がよぎり始めます。しかし彼らは時間を惜しむかのように、福音の教えに従って生活することの祝福について話し合います。

ソフィア・カレニョ, 16歳



アルゼンチン・メンドサステーク,
メンドサ第2ワード

「わたしは9歳のときにバプテスマを受けましたが、3年間は活発ではありませんでした。教会に行き始めたとき、2度目のバプテスマのように感じました。セミナーのおかげで、初めて福音がよく理解できるようになりました。」
ソフィア・カレニョ

ミリアム・メンドサ, 17歳



アルゼンチン・ゴドイクルスステーク,
ゴドイクルス西ワード

「学校では時々大変なことがあります。昨日も、友達の一人にコーヒーを勧められました。飲まないと言うのはつらかったけど、その友達に自分が教会の会員だということと、そして、肉体は神の霊が宿る神聖な宮であり、自分の肉体を大切にしなければいけないということを話しました。」ミリアム・メンドサ

ステラ・ルセロ, 17歳



アルゼンチン・メンドーサステーク、
メンドサ第1ワード

「ぼくが前に通っていた教会では、救い主について話したことは一度もありませんでした。去年、宣教師が我が家に来て、イエス・キリストについて教えてくれました。この教会に入る決心をしたのは、イエス・キリストについて知りたかったからです。」ステラ・ルセロ

マリア・エウヘニア・ロシ, 15歳



アルゼンチン・ゴドイクルスステーク、
ゴドイクルス西ワード

「ゴードン・B・ヒンクレー大管長のお話を聞くために、ワードの人たちと一緒にブエノスアイレスへ行ったときのことは忘れません。そのバス旅行は片道16時間で、丸2日かかりました。預言者のお話を聞いたとき、わたしはそれが、イエス・キリストから授けられた言葉だということが分かりました。わたしは心の中にとっても強いものを感じ、この教会が真実であると分かりました。」マリア・エウヘニア・ロシ

レアンドロ・ロマッチ, 14歳



アルゼンチン・ゴドイクルスステーク、
ゴドイクルス西ワード

「ぼくはヒンクレー大管長が、ブエノスアイレスに来られる前の日に、チリのサンティアゴでのお話を聞きました。預言者がお話を聞いて、ぼくは御霊を強く感じ、目には涙があふれました。預言者の言葉が真実だということが分かりました。」レアンドロ・ロマッチ

エミーナ・ラステリ, 14歳



アルゼンチン・ゴドイクルスステーク、
サンイグナシオワード

「わたしはセミナーに出席できることにとっても感謝しています。セミナーのおかげで強くなって、『世のものにならず』、世の中の悪いものと戦う力が得られるからです。今年はイタリア語を勉強したかったけど、その授業がセミナーと同じ時間でした。イタリア語のクラスに出席できなかったのはとても残念だったけど、セミナーではもっと大切なことを勉強しているんだという確信があります。」エミーナ・ラステリ

カレン・ヌーニェス, 16歳



アルゼンチン・ゴドイクルスステーク、
サンイグナシオワード

「6年前に友人のアリエルに会いました。わたしが彼に最初に話したのは、自分がこの教会の会員だということでした。彼はとても興味を示しました。今は教会に通って、わたしと一緒にセミナーに出席しています。わたしはセミナーのおかげで、聖文について理解を深め、友人と福音を分かち合えるようになりました。」

カレン・ヌーニェス

「ぼくは中学生のときに、教会員だという理由で何人かの友達にばかにされたことがあります。自分の証^{あかし}について、彼らに話そうと思いましたが、恥ずかしくてできませんでした。でもそのことについて祈ろうと決心しました。そして祈りをしてからは、自分の証を彼らに話すことができました。後で、友達の一人から教会について質問を受けました。するとほかの人たちも熱心に聞くようになりました。その日以来、ぼくと教会を見る友人たちの目が変わってきました。」アンドレス・ナバロ

アンドレス・ナバロ, 18歳



アルゼンチン・マイブ・デ・クヨステーク、
マイブ・デ・クヨワード

サルタの青少年

サルタはアルゼンチンの北西部、ボリビアとの国境に近い所にある町です。アルゼンチンの中心部からかなり離れた美しいこの町でも、例に漏れず人々の生活は慌ただしく、末日聖徒の青少年たちにとっても、必ずしも快適なことだけとは言えません。新しく教会に入った人々は生活の仕方を変え、自分がなぜそう信じるかを知り合いや友人に説明しなければなりません。自分がなぜ福音を大切にするのかを、教会員でない親や兄弟たちに理解させるのに苦労している人もいます。

数年前にサルタの末日聖徒の礼拝堂が火事で焼けたとき、聖徒たちは信仰と希望をもってその状況に立ち向かいました。多くの働きと犠牲の末に、それからわずか1年半後には、同じ場所に、新しく美しい礼拝堂が建てられました。サルタの末日聖徒の青少年たちも、「建てる」ことについて、それと同じ信仰、希望、熱意を示しています。「何を、どのようにして建てるか」と聞く人もいるでしょう。その答えは簡単です。朝5時に起きてセミナーのクラスに出席し、毎日聖文を読み、友人に良い模範を示し、勇気を出して証をするのです。これらのことはすべて、教会の将来を築き上げる行いなのです。

ネリダ・イバナ・ゴンザレス, 15歳



アルゼンチン・サルタ西ステーク、
オラバリアワード

「わたしは12歳になるまで教会員ではありませんでした。でも教会に入ってから証がとても強くなってきました。セミナーへ行って、イエス・キリストとキリストがわたしたちのためにしてくださったことを学ぶのが好きです。わたしはセミナーのクラスのノートを学校へ持って行きます。そうすると、友達にそれを見せて、教会のことを説明できます。」 ナタリア・ビルヒニア・チャイラ

「わたしはセミナーに出席し始めたときには、あまり強い証を持っていませんでした。でも聖文を読んでからは、キリストの愛が家族に祝福をもたらし、わたしたちを力づけてくれていると感じています。」 ネリダ・イバナ・ゴンザレス

「ぼくは宣教師になりたいです。友達にはいつも教会のことを話しています。そしてこの教会が真実であるという自分の確信も伝えています。求道者になる若い人を探したり、レッスンの約束の計画をしたりして、宣教師を助けています。」 アンドレア・ロレナ・ベルネル

パオラ・ラミナ・マルチネス, 16歳



アルゼンチン・サルタステーク、
トレスセリトスワード

「バプテスマを受けたときは、今ほどは理解していませんでした。今までは教会で証をしたことはありません。でも今は、自分から証をしたいと思っています。」 パオラ・ラミナ・マルチネス

「あるとき、セミナーのクラスで、わたしたちは生徒がもっと来るようにと祈りました。その祈りの後で、3人の友人がクラスに来ました。それは自分たちの祈りへの答えだと確信しました。」 エバ・アナリア・アルセ

ナタリア・ビルヒニア・チャイラ, 14歳



アルゼンチン・サルタ西ステーク、
オラバリアワード

アンドレア・ロレナ・ベルネル, 14歳



アルゼンチン・サルタ西ステーク、
オラバリアワード

エバ・アナリア・アルセ, 17歳



アルゼンチン・サルタステーク、
トレスセリトスワード

マリア・サーベドラ, 15歳



アルゼンチン・サルタ西ステーク,
オラバリアワード

「友達から『あなたは どうして悪い言葉を遣わないの?』とか『どうしてコーヒーを飲まないの?』と聞かれたときは、自分の信じていることを話します。また教会の中でも外でも良い模範になるように努力していることを話します。」マリア・サーベドラ

「ぼくはちょうど2年前にバプテスマを受けました。バプテスマを受けて水の中から上がったとき、だれかが自分のそばにいて感じました。」ホセ・アルナルド・チャイラ

ホセ・アルナルド・チャイラ, 17歳



アルゼンチン・サルタ西ステーク,
オラバリアワード

模範を示す

南アメリカ南地域会長会会長を務めていたジョン・B・ディクソン長老は、数年前に地域レベルで行った青少年の奉仕活動について次のように話しています。アルゼンチンの最南端にあるコモドロ・リバダビアステークの青少年が、1.25キロの海岸の堤防の塗装をする計画を立てました。白い塗料、バケツ、はけを持った150人の青少年と彼らの指導者は、すばらしい仕事をしました。地元のラジオ局がそのことを聞きつけて取材に来たほどでした。「彼らは末日聖徒イエス・キリスト教会の青少年です。」「彼らがこれをした理由は?」「彼らは自分たちの住んでいる地域を愛し、何かボランティア活動ができればと考えています。」このニュースは地元のすべてのラジオ局や新聞に伝えられました。

ディクソン長老はこう話しています。「この青少年たちは、自分のことを後回しにして人のために奉仕し、だれかの役に立つことをしているのだということを理解しています。この地域の約160のステークで、皆さんが何度も何度もこのような模範を繰り返し行い、同じ日に地域社会での奉仕活動を行ったとしたら、すばらしい結果を生むことでしょう。」

そして、アルゼンチンの62のステークの若い男性と若い女性たちは、毎日、報道機関の注目も一切ない中で、それぞれのチャレンジに立ち向かいつつ、ほかの人々のために奉仕の働きを続けています。彼らは、福音を学び、人々に奉仕し、自らの証を築くことによって、友人や家族に、目立たなくても、さらに個人的な模範を示しているのです。このような努力のもたらす結果には、注目すべきすばらしいものがあります。□



サルタのセミナークラス

生ける預言者の言葉

ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告

教会での奉仕

「教会を皆さんの親友にしてください。教会を皆さんの大切な同僚にしてください。奉仕するよう召されたら、それがどのような召しであれ、奉仕してください。求められたものはすべて行ってください。どんな召しで働こうとも、それによって皆さんの能力は伸ばされるはずで、わたしはこれまで、この偉大な組織の中で、様々な責任を受けて奉仕してきました。そして、それがどのような奉仕の機会であれ、必ずそれなりの報いを受けてきています。

この奉仕に携わる際にも、皆さんは利己心を捨てて献身することが求められています。確固たる忠誠心と信仰が求められています。皆さんは、この世の生涯を終えるまでに、数多くの立場で奉仕をすることになります。その中にはささやかな機会と思われるものもあるかもしれませんが、しかし、この教会にあっては、ささやかな召しも、重要でない召しも存在しません。どの召しも重要なものです。どの召しも、御業を進めるには不可欠なものです。教会での責任を軽々しく考えるようなことは決してしないでください。……

皆さんの人生の中に、いつも教会で奉仕する場を持ってください。教会の教義に関する知識を絶えず増加させてください。教会の組織に関する理解を絶えず深めてください。教会の持つ永遠の真理に対する愛の気持ちを、日ごとに強めていってください。

教会は皆さんに犠牲を払うよう求めることがあるかもしれませんが、皆さんの所有するものの中から最も優れたものを差し出すように求めることもあるかもしれませんが、しかし、そうしたからといって余分の費用がかかるわけではありません。それは、そうした犠牲が投資となっていて、皆さんが命あるかぎり、配当金が支払われるようになるからです。教会は、永遠の真理の大いなる貯水池です。それをしっかりと受け止め、決して離れないようにしてください。」¹

考える時間を生み出す

「わたしたちの生活は多忙を極めています。毎日四方八方へ走り回っています。実際にはかない目標を、まるで



考えることもなく追い求めて、無為に過ごしている有様です。わたしたちは、少し時間を割いて、内省や成長のために使うことができるのではないのでしょうか。わたしは自分の愛する父が今のわたしとほぼ同じ年齢だったころのことをよく覚えています。そのころ父が住んでいた家には、敷地の中に、岩がむき出しになって、ちょうど壁のようにになっている所がありました。それほど高い壁ではありませんでしたが、穏やかな天気の日には、父はそこへ行って、その壁の上によく座っていました。

何時間もそこに座っている父を見て、わたしは、父はきっと自分で話したり書いたりする内容を、考えたり黙想したり熟考したりしているのではないかと考えました。と言うのも、父は話をさせても物を書かせても実に卓越した才能を示したからです。父は、その晩年に至るまで、たくさんの本を読んでいました。決して成長することをやめようとはしませんでした。父にとって人生とは、考えることだけを取ってみても、実に偉大な冒険だったのです。」²

わたしたちはクリスチャンである

「わたしたちはクリスチャンでしょうか。もちろんそうです。まともに考えてそれを否定できる人は一人もいません。わたしたちは、いわゆる伝統的なキリスト教徒とは、いささか異なるところがあるかもしれませんが、しかし、主イエス・キリストが行われた贖いを、わたしたちほど文字どおり信じている人々はほかにいません。そして、その主イエス・キリストこそ神の御子であって、人類の罪のために死なれ、さらに墓からよみがえって、現在は、生ける御父の復活された御子としてなお生きておられるということを、わたしたちほど強固な礎として信じている人々もほかに存在しません。

わたしたちの教えも、わたしたちの宗教的な実践も皆、次のような、一つの基本的な教義をよりどころにしています。それは、『わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる』というものです。これは、わたしたちの信仰簡条の第1節であり、ほかのすべては、この信条を出発点としています。」³

憐れみ

「救い主はこう言われました。『あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。』（マタイ5：7）今の世には、憎悪がはびこっています。今の世には、敵意が満ちみちています。今の世には、利己心があふれています。今の世には、傲慢が蔓延しています。わたしたちの生活の中に、憐れみという資質が取り入れられていることは、何とすばらしいことでしょうか。ほかの人々に助けの手を差し伸べ、ひざの弱い人々、言い換えれば、自らの足で立つことができずにいる人々を、支えて立たせてあげるのです。つまり、憐れみと愛と親切の精神で、助けの手を差し伸べるのです。これこそ主の福音の心髄です。『だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。』（マタイ7：12）わたしたちの生活の中で、憐れみに満ちた行いを実践することは、いかにも必要なことではないでしょうか。』⁴



神権にふさわしい生活を送る

「この教会では、ふさわしい生活をしている男性は皆、聖なる神権の職に聖任されることが可能です。そして、聖任されたときには、同時に非常に大きな責任を受けることとなります。神から神権を頂いている皆さんは、その神権にふさわしい生活をしておられるでしょうか。全能の神の力が皆さんを通じて現されるような生き方をしておられるでしょうか。皆さんは、夫として、あるべき姿で妻に接しておられるでしょうか。思いやりと尊敬と愛に満ちた言葉で、妻に語りかけておられるでしょうか。この世の生涯で、皆さんが受けることのできる最良のものとは、皆さんが愛する妻と互いに良い伴侶であることからもたらされます。妻を虐待したり、見下すような言葉を投げかけたりしないでください。常に励まし、支えてあげてください。女性たちがござって、『わたしは夫に心から感謝しています。わたしは夫を心から愛していますし、夫がわたしを愛してくれていることもわたしは知っています』と言えるようにしてあげてください。皆さんは、病気の人の頭に手を置き、聖別された油を注ぎ、健康の回復を祈って祝福することのできるように、その神権を持つ者としてふさわしい生活をしておられるでしょうか。その神権にふさわしい生き方をしておられるでしょうか。この偉大な神権にふさわしい者となれるように、自分の生活の中から罪を捨て去る努力をしておられるでしょうか。皆さんは、神権者として、教会の統治に参加できるふさわしさを身に付けておられるでしょうか。いかなる職であれ、召された職に応じて仕えることのできるふさわしさを身に付けておられるでしょうか。そして、最善を尽くして、ふさわしい生活をしようと努力しておられるでしょうか。

ここに集っている若い男性の皆さん、皆さんはアロン神権を頂いています。皆さんはその神権にふさわしい生活をしていますでしょうか。『すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため』（教義と聖約1：20）、皆さんが世の汚れに染まらずに生活し、正しいことを実践していく必要があるのです。』⁵ □

注

1. 1997年10月21日、ユタ州ローガン、インスティテュートのデイボーショナル
2. 1997年10月21日、ユタ州ローガン、インスティテュートのデイボーショナル
3. 1997年9月14日、ニューメキシコ州アルブカーキ、宗教記者協会での会合
4. 1997年8月10日、ウルグアイ・モンテビデオ、地区大会
5. 1997年10月15日、トンガ・ババウ、会員との集会



「あなたは殺してはならない」

アーサー・R・バセット

背景 / 「怒りもなく」ナンシー・グレイザー画；
挿入画 / 「立法者モーセ」テッド・ヘニンガー画



第6の戒めは
殺人を禁じています。
それは最低限の
基準です。

救い主の模範は、より高い期待、
すなわちほかの人々の人生を
高揚させるものを示しています。

古代イスラエルの時代に、神聖な契約の箱の中に幾つかの貴い品々が納められていました。その一つが、十戒の記された2枚の石板です。これらの戒めの最初の4つは、神とわたしたちとの関係を述べたものであり、また第5の戒めは両親との関係に関するものです。伝承によれば、「あなたは殺してはならない」（出エジプト20：13）という第6の戒めは、2枚目の石板の言葉の最初に挙げられていたと思われます。その石板には、同胞との関係について主が懸念しておられることが挙げられていました。

人を殺すようにひどい誘惑を受ける人はほとんどいないでしょう。しかし、わたしたちの多くは、この律法を破ると、自分が認識している以上に大きな影響を受けます。人を殺すことがしばしば政治戦略や個人の利益の確保の手段となる世界では、平和は得られません。わたしたちには現代のシナイが必要であるように思われます。その気高い高地から、神が再び雷のような御声を発せられるために。「あなたは殺してはならない」と。

全世界的な問題

かつて、第一次世界大戦はすべての戦争を終結させる戦争であると言われました。また、第二次世界大戦後、おびただしい数の人々が殺害されたホロコーストのような恐ろしい出来事は、文明諸国がすでにそれを目に見ているので二度と起こらないであろうと、多くの人々は考えました。しかし、その後、何年にもわたって、東南アジアからアフリカ

や東欧に至るまで、方々の地域で大量虐殺が行われてきました。

大国、小国を問わず、様々な国の連続殺人者や大量被害者も、第6の戒めを破っています。暴力団の抗争では、ほとんど必ずと言ってよいほど殺人が行われます。刃物で刺したり、銃で撃ったり、そのほか無分別な暴力行為が見受けられるのです。この気まぐれな殺人行為は、愛する人を失った家族に言うに言えない悲しみをもたらし、また暴力行為に見舞われた市や村や近隣の住民に恐怖を与えます。

わたしは、アイダホ東南部の小さな町で育ちましたが、そこで経験した数々の出来事を今でも楽しく思い出します。映画や高校の活動に出かけた夜も、自分の身の安全にまったく恐れを感じる事がなく、独りで帰宅できました。もっと小さな町では今もそうであるようにと願っています。しかし、今日では、多くの場所でそのような状態ではないと感じています。

最も悲惨な罪

わたしたちは、聖霊に対して赦されない罪を犯す人々を除いて（マタイ12：31参照）、悔い改める人々に対しては贖罪が効力を発揮することを知っています。しかしながら、地上での人と人の交流において、第6の戒めを破る行為は、人の犯す罪の中で最も忌まわしい罪なのです。殺人者は、一個人の地上での経験を終わらせることによって、自分が殺した相手に対してひどい罪を犯しています。殺人を犯す者は、死すべき世での経験という貴い賜物を相手から盗み、また命の付与者である神に公然と反抗するのです。

さらに、殺人者は、自分が罪を犯した相手に赦しを求めることや償いをする事を、少なくともこの世では行えない立場に自らを置いています。殺人は悲惨な行為であり、預言者ジョセフ・スミスは、殺人者は「最後の1コドラントを支払ってしまうまで、赦しを得られない」と語っています。

さらに、近代の啓示の中で主がそのことに御言葉を付け加え、えておられる

とおおり、今日の道徳上重大な問題の多くが、何らかの点で第6の戒めにかかわりを持っています。「殺してはならない。これに類することをしてはならない。」（教義と聖約59：6）今日の新聞の見出しや放送には、「これに類する」問題が満ちみちています。自殺、墮胎、²安楽死、毒物公害、故意のエイズ感染など、たくさんあります。

日ごろの注意

わたしたちは、今日の社会を特徴づける暴力行為から、自分自身について、また自分自身の生活や子供たちの生活の中で気をつける必要のある事柄について、多くのことを学びます。例えば、わたしたちは欲望や自己中心に絶えず注意を払う必要があります。これらの気質はしばしば暴力行為の根となります。主が山上の垂訓で説かれたように、ほかの人々の品位を傷つけることや、ほかの人々に対して怒りを表すことは、もっと重大な過ちへと進んでしまい、殺人さへ犯すようになります（マタイ5：21-22参照）。利己心と高慢は激しい怒りと暴力行為の下地となるのです。物事が自分の望むとおりに進まないときや、



殺人を犯す者は、カインが行ったように、死すべき世での経験という貴い賜物を相手から盗み、また命の付与者である神に公然と反抗するのです。

ほかの人々が自分の行わせたいように行わないとき、しばしば怒りの気持ちが起こります。わたしたちが権限や権力を持つ立場にいれば、怒りは、「不義な支配」の形を取るようになります（教義と聖約121：34-46参照）。権力を持つ立場にいないければ、怒りは一般に、うっ積した憎悪や憤りの姿を取り、時にはそのことに関係のない相手に向かって発散されます。このことが家庭でも起こり得ることを、ベニヤミン王が心配していたのは明らかです。彼は自分の民に、子供たちに食べさせさせることだけでなく、争いやけんかをさせないこと、そして悪魔に仕えないようにさせることも教えました（モーサヤ4：14-15参照）。

人は、否定的で不快な感情を助長する状況を絶えず追い求めていたら、自分のためになりません。わたしたちの社会が人生のもっと暗い側面に、特に死や暴力行為に不健全な魅力を感じているように思われることが、時折あります。人々は、映画やテレビで何度も何度も映し出される殺人場面を、しばしばスローモーションで目にします。時には、スポーツやそのほかの競技で暴力行為が称賛されます。いきいきと描き出される暴力行為が、視聴者の犯す暴力行為の一つの見本となっています。

わたしは、シオンの陣営として行軍していた兄弟たちに預言者ジョセフ・スミスが与えた一つの教訓に、いつも興味をそそられてきました。啓示に基づいて組織されたその一行は、ミズーリの教会員に対する迫害者と戦いを交える準備を整えていました。必要であれば、ほかの人々を守るために自分の命をささげる、あるいは相手の命を取る準備を整えていたのです。ところが、預言者は、ある野営地で彼らが見つけた3匹のがらがら蛇を殺すことさえも禁じたのです。「そのままにしておこう。傷つけてはならない。神の僕たちがそのような気持ちで、蛇を攻撃して、どうして蛇がその毒を失うだろうか。野蛮な生き物よりも先に、人間が害を与えない者とならなければならない。人間が狂暴な性質をなくし、動物を殺すことをやめるときに、ライオンと子羊がともに住み、乳飲み子が安全に蛇とともに遊べるようになる、と。」³

確かに、社会がこのような敬虔さをもって命の神聖さを、それがどのようなものであってもすべて尊ぶようになったら、第6の戒めを破る者は大幅に少なくなることでしょう。

暴力行為の見られる世界で生きる

しかし、暴力行為の満ちている世界で、わたしたちは何をしなければならいのでしょうか。第6の戒めを破ることに伴う諸問題に、どのように対処しなければならいのでしょうか。信仰と希望と慈愛の原則に関する聖文やわたしたちの教会の指導者の言葉は、幾つかの答えを明らかにしています。

暴力行為の見られる世界のただ中における神を信じる信仰。わたしたちの神の属性を知ることによって、わたしたちは世界に立ち向かう強さを見いだします。神はわたしたちを深く愛してくださっているので、「心のいためる者をいやし……すべての悲しむ者を慰め」るために御子を遣わされました（イザヤ61：1-2）。しかし、神は「罰すべき者をば決してゆる」されません（出エジプト34：7）。預言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「わたしたちの天の御父は、わたしたちが信じているよりも、あるいは受け入れているよりももっと寛大な物の見方をしておられ、御父の憐れみと祝福は限りがない。また同時に、わたしたちが想像している以上に、天の御父は、罪悪を働く者にとって恐ろしく、罰の執行に厳しく、あらゆる偽りを看破しようとする御方である。」⁴

確信をもって語られたこの言葉の最初の部分は、天の御父に対するわたしたちの信頼と愛を増してくれま。混乱と苦悩の深みの中で、特に、わたしたちにとって貴い命が失われたことでその混乱と苦悩がもたらされたときでも、わたしたちは天の御父の平安を得ることができます（ヨハネ14：27参照）。救い主はまた、「死に至るまでも恐れてはならない」、むしろ「霊の命」を心にかけるようにと、わたしたちに勧告されました（教義と聖約101：36-37）。救い主は、わたしたちが平和をつくり出す者となり、「神の子」となるように求めておられるのです（マタイ5：9）。

しかし、主は「罰すべき者」を赦されず、主の罰はわたしたちが想像する以上にもっと厳しいという警告は、わたしたちが、ほんとうの意味での神の正義に慰めを見いだす助けとなることでしょう。主はわたしたちの状況を承知しておられ、わたしたちに対して罪を犯す人々のことを御存じです。そして主は、御自分の定められた時に、御自分の方法で彼らを取り扱われる

のです。

暴力行為の見られる世界のただ中における希望。末日聖徒は決して世の悲惨で陰うつな者たちの中に姿を見いだされるようであってはなりません。わたしたちが今日の社会の諸問題や悲劇について話すときに注意を払わなければ、子供たちは、世の人々は善い人々ではなく、だれも信頼できないと誤解することになります。わたしたちは、特に家族と語るときに、このことにバランスを保つ必要があります。平和の福音の伝道を含めて、世界がかつて目にしたことのない最も素晴らしい特別な出来事が数々起こっている時満ちる時代にわたしたちが生を得ていることを強調するとよいでしょう。わたしたちは子供たちに、賢く、注意深くあるように教える必要があります。それでも、悲観主義を前にして、わたしたちのメッセージを希望のメッセージとしなければなりません。使徒パウロはわたしたちに、世の罪と腐敗があっても、御霊の実がわたしたちの生活に愛と喜びと平和をもたらすことができるということを思い出させています（ガラテヤ5：22-23参照）。

暴力行為の見られる世界のただ中における慈愛。主イエス・キリストの弟子として、わたしたちは、自分自身の生活や家庭に暴力行為の影響が及ばないようにすることができます。ほかの人々について不義な裁きを行うのを避けることができます。すなわち、特定の見方や憶測を広めることによって人々とその家族に苦痛を与えるようなことは避けるのです。第2に、わたしたちは自分の生活の中から、また家庭の中から乱暴な言葉遣いをなくすことができます。第3に、可能な範囲で苦痛を和らげる機会を探すことができます。特に、第6の戒めが破られたことによって影響を受けた人々の生活における苦痛を和らげる機会を求めることができます。

わたしたちはほかの人々を裁くという過ちに陥ると、第6の戒めを破った人を墮落した人として罪に定める傾向があります。しかしながら、神のみが御自分の子供たちの思いと心を御存じなのです。十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は、自殺について述べた中で、様々な問題を取り上げています。それは、第6の戒めに背く行為にも当てはまると考えられます。

「わたしは、罪に対する裁きというものは、一部の人が考えているほど単純なものではないと思っています

す。主は『あなたは殺してはならない』と言われました。これは、状況に関係なく、殺した人は一人残らず罪に定められるという意味でしょうか。わたしは、心の思いや状況の違いについては主は考慮してくださるものと考えています。」⁵

バラード長老は、自殺には精神的、情緒的、あるいは肉体的な要素も働くことがあり、わたしたちはそれを理解していないとも語っています。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は、これに関して次のような洞察を与えています。「精神的な重圧に悩まされている人は、自分で自分を制御することができなくなり、混乱を来して、自分の行為に責任を持てなくなるようなこともあり得る。そのような人は、自分の命を自分で断ったからといって罪に定められることはない。また、心に留めておかなければならないことは、裁かれるのは主だという点である。」⁶

墮胎や肉体上の虐待の場合も、同じような考えが当てはまるかもしれません。わたしたちの責任は、どの場合もできるだけ思いやり深くあり、主の裁きにゆだね、できる限りの方法で愛をもって手を差し伸べることです。時折、わたしたちの対処法は悲しむ人々のために祈るだけ、という場合もあります。このような祈りが、「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」（モーサヤ18：9）ためにほかの人々の重荷を負う唯一の方法ということも時にはあるのです。しかし、できるかぎり、わたしたちは悲しみのために引きこもった生活をしている人々に、人生のより深い意義と目的を取り戻す働きかけをする必要があります。

主の命のメッセージ

「何度読み返しても尽きることなく慰めと教えを得ることのできる特別な聖句があることは、何と頼もしいことか」と、わたしは若いころからよく考えたものです。しかし、標準聖典の中には、限定して選ぶのが難しいほど力強いものがいつもたくさんありました。しかしながら、過去数年間、熟考するとき何度も何度も思い出される一つの聖句がありました。イエスは簡潔に述べておられます。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」（ヨハネ10：10）

わたしはそのたった一つの聖句から、数々の関連ある

聖句を次々と思い出すのです。「彼らに命を与えられた神」(アルマ40:11)「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ14:6)「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ1:39)ほかにたくさんあります。命という言葉そのものは、救い主の使命と同義語のように思われます。主から心を触れられた人は皆、その接触からさらに豊かな命を得ました。

イエスはすべての戒めの中でいちばん大切なものは何か尋ねられたとき、二つの聖文の一つに合わせて答えられました。それは、申命記第6章5節とレビ記第19章18節です。

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。」(マタイ22:37-40)

要するに、十戒の第6の戒めを含めて、神の戒めはすべて、これら二つの偉大な原則、すなわち神の愛と隣人愛に集約されます。これらの原則は、慈愛、すなわちキリストの純粋な愛の重要な要素であり、この愛が福音のメッセージの中心を成すのです。

確かに、このことを理解するようになる人は、「あなたは殺してはならない」という戒めが、同胞との交わりに関して主要な戒めであることを理解するようになるのです。殺すことは、主御自身が「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」(ヨハネ10:10)と宣言された、その使命に真っ向から反対する行為です。

わたしたちは主の弟子として、この豊かな命を得させる愛に劣るものを、どうして同胞に与えることができるでしょうか。□

注

1. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス選、189

2. 十二使徒定員会のボイド・K・バックャー長老は、次のように教えている。「近親相姦や強姦という憎むべき犯罪による場合や、母体の生命が危ういという権威ある医師の証明がある場合を除いて、あるいはまた胎児に重大な異常があって死産が確定しているときを除いて、墮胎は明らかに禁じられています。たとえばこうした例外の場合でも、正しい選択をするためによく祈る必要があります。」(『聖約』『聖徒の道』1991年1月号、93)

3. 『預言者ジョセフ・スミスの教え』71

4. 『預言者ジョセフ・スミスの教え』257

5. 「自殺について分かっていること、分かっていること」『聖徒の道』1988年3月号、18

6. *Mormon Doctrine* 『モルモンの教義』771

主御自身が御自身の使命を宣言されました。
「わたしがきたのは、羊に命を得させ、
豊かに得させるためである。」(ヨハネ10:10)



わたしを助けて、 導いて

ティファニー・ロックヤー

写真/ウエルデン・アンダーセン

夏 休みはいつも、霊的に成長するよい機会でした。普段より時間があり、学校生活のせわしさもないおかげで、普段にも増して御^{たま}霊を感じられるようでした。

でも、今年の夏休みはそうではありませんでした。心が何となくむなしさでいっぱいになり、混乱してしまいました。わたしは、天の御父がわたしたちと聖文を通じてコミュニケーションを取っておられるという話をよく聞いていました。そこでわたしは、両手に『モルモン書』を持ってベッドに座り、祈り始めました。「天のお父様、わたしは、すべてのことを正しく行ってきたつもりです。聖霊が絶えずわたしに導きを与えてくださるよう正しい選択をしているのに、このようなむなししい気持ちに包まれています。お父様、どうかわたしがどんな悪いことをしたのか、お教えてください。」

そうして、わたしはアルマ書第37章を開きました。わたしの祈りの答えは、39節から始まる聖句に記されていました。アルマはリアホナについてこう語っています。「それは、先祖に荒れ野の中で旅をする進路を教えるために用意されたものであった。」

しかし、それらの奇跡は小さな手段によって行われたため、それは彼らに数々の驚くべき業を示した。ところが、彼らが怠けて、信仰を働かせることと熱意を示すことを忘れると、それらの驚くべき業は止まってしまい、彼らの旅は進まなかった。」(アルマ37:39, 41)

それは、まるでわたしに向かって話された言葉のようでした。天の御父は、わたしに腹を立てておられたわけではなかったのです。神は、わたしの心の望みが正しく清いことを御存じでした。けれどもわたしは、霊性を維持し、証^{あかし}を強めはぐくんでいくことに対して、少し努力を怠っていたのです。この不真面目な姿勢が、わたしの「旅」における歩みを遅らせていました。

わたしは聖文学習にあまり集中していなかったので、そこから始めることにしました。何といても、聖文はわたしたちの時代に与えられたリアホナなのです。わたしは、天の御父が、わたしたちのことをとても心に留めておられ、聖文を通してわたしたちに語りかけてくださることに、心から感謝しています。□

わたしは、
わたし自身の
リアホナを
見つけました

わたしの聖日に聖式をささげなさい

神は6日（または6つの時の区切り）の間に地と地に住むものを創造した後に、働きを休まれました。そして、神は7日目を安息の日として聖別されました（モーセ3：3；アブラハム5：2-3参照）。このときから、神の民は「永遠の契約として、代々安息日を守」ってきました。安息日は主が神の民を聖別されたことの永遠のしるしとなるものです（出エジプト31：12-17参照）。

安息日を尊ぶことによって受ける祝福

安息日は心身を休め、再新する日であり、霊を養い育てるときです。スペンサー・W・キンボール長老はこのように勧告しています。「安息日を守るためには、ひざまずいて祈り、レッスンの準備をし、福音を学び、瞑想し、病人や苦しんでいる人を訪問し、眠り、健全な書物を読み、出席することが期待されているその日のすべての集会に出席するべきである。」（『救しの奇跡』103）

安息日を聖なる日として尊ぶ人々には豊かな祝福が与えられます。それらの祝福の中には、信仰を高められ、平安と愛が強められるという霊的な祝福も含まれています。

与えられる祝福はほかにもあります。一例を挙げてみましょう。ペルーのリマに住むテレサ・ガイは夫に先立たれ、小さな雑貨店を営んで生計を立てていました。日曜日は彼女の店で商品が最もよく売れる日でした。テレサは宣教師から福音を聞いたときに、日曜日に店を閉めるかどうかで悩みました。ある日、彼女はとうとう店を閉めて教会へ行くことを約束しました。ところが約束したその日曜日は1年で最

も売り上げの多いおおみそかだったのです。おおみそか、元旦と2日間も続けて店を閉めることは売上げに深刻な影響を与えることとなります。けれどもテレサは約束してしまいました。こうして彼女は日曜日に店を閉めて教会へ行きました。店を開いた火曜日が終わり、1日の売上げを集計した彼女は開店以来かつてない金額になっていることに気づきました。その後、テレサは日曜日に店を開いたことはありません。しかし、売上げは順調に増え続けました（『アンデスの開拓者』『聖徒の道』1997年5月号、44-46参照）。

安息日を尊ぶ人々が皆、ガイ姉妹と同じように物質的な祝福を受けるわけではありません。けれども、安息日を聖なる日とすることによってこの神聖な戒めを守る人々は、必要とする祝福を受けることができます。

聖約を思い起こして、新たに作る

安息日がもたらす一つの祝福は聖餐を受ける特権です。ブリガム・ヤング大管長はこのように宣言しました。「主イエス・キリストがわたしたちのために死なれたことを覚えていると証言するために主と天使と、互いの前に出ることは、わたしたちが受けられる最大の祝福の一つです。そうすることによってわたしたちは、聖約を覚えていることと、主の福音を愛していること、主の戒めを喜んで守ること、そして地上で主の名を敬うことを、御父に証明するのです。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』167）

以前に中央若い女性会長会で副会長を務めたボニー・D・パーキン姉妹はこの聖なる儀式が持つ清めの力について説明しています。「わたしたちは聖

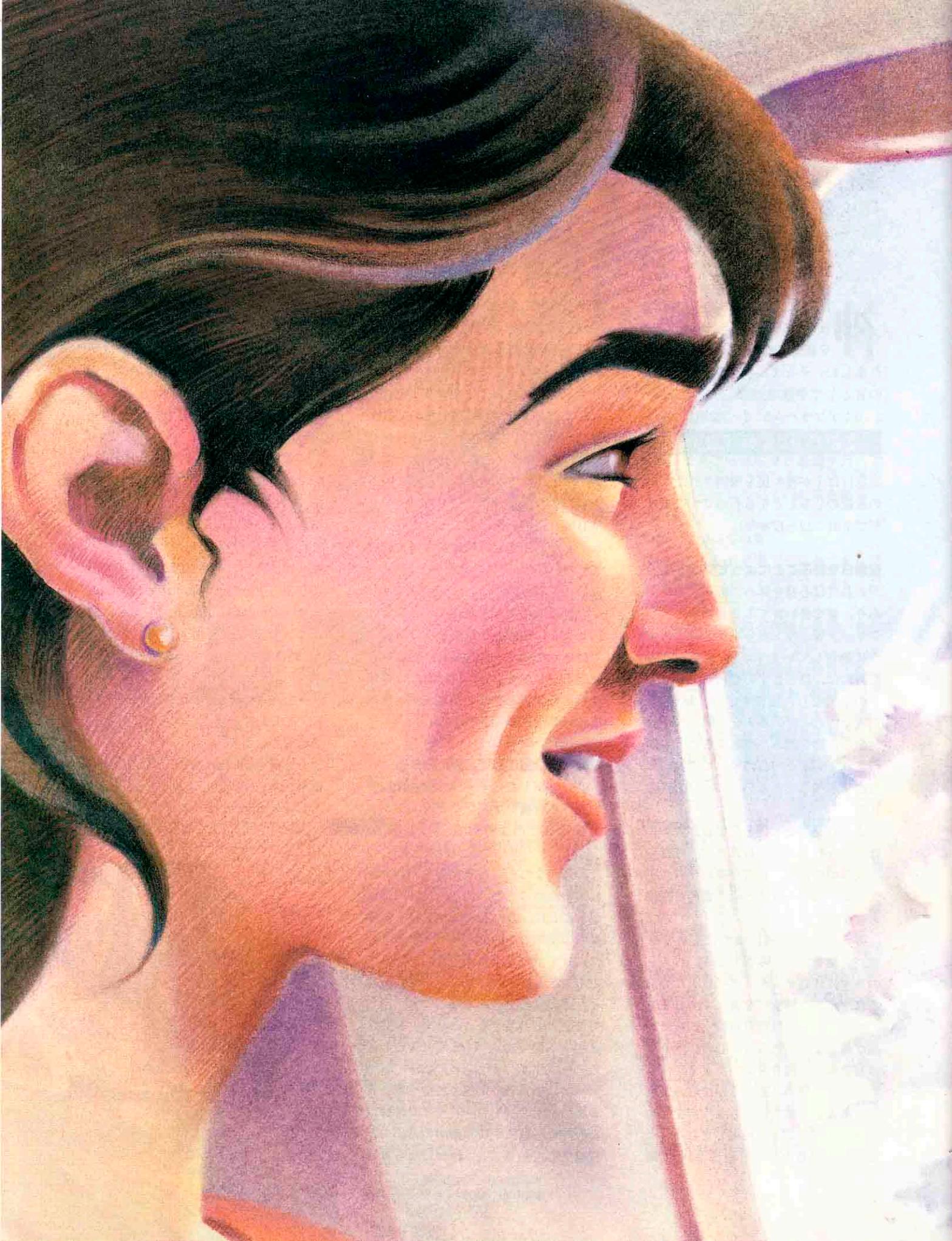
餐を通して聖約を新たにできます。そうすることにより、わたしたちが敬意をもってきちんと聖約を守るなら、初めてバプテスマを受けたときのように清く、新鮮な気持ちになれます。」（『聖約を記念する』『聖徒の道』1995年7月号、85）

安息とは現在と永遠にわたってわたしたちに祝福をもたらすという意味です。「教会員としてわたしたちが主の御心と主の御霊に添って安息日の活動を行うよう努めるなら、わたしたちの生活は、喜びと平安で満たされるでしょう。」（"First Presidency Statement on the Sabbath" *Ensign* 「安息日に関する大管長会の声明」『エンサイン』1993年1月号、80）

● 安息日を充実した日とするために、わたしたちはどのようなことができるでしょうか。

● 聖餐を受けるためにどのような準備をしたらよいでしょうか。□





雲の向こう

クラウディア・アパレシダ・アシス・アウグスト

絵/ディリーン・マーシュ

フラジルの首都ブラジリアの空港に着いて、わたしはわくわくしながら辺りを見回しました。この日は、わたしの伝道期間の最後の日で、ブラジル国内の別の地域にある故郷の町に飛行機で帰還するところでした。飛行機に乗るのはそれが初めてでした。空港の窓の外は暗く曇り、しとしとと霧雨が降っていました。わたしは雲に切れ間ができるようお願いしながら、外の様子を見ていました。青空で快晴の日なら、町や山、森、そのほか様々なものが眼下に見渡せるでしょう。「上からは、何もかもすごく小さく見えるわよ」と皆が言っていました。わたしは鳥が空高く飛ぶときのように、物を見たり感じたりしたかったのです。

離陸後も、わたしは窓の外をじっと見ていました。けれども、雲に近づけば近づくほど、雨は強く激しくなっています。わたしは肩をすくめ、がっかりしてため息をつきました。「何も見えない。初めての飛行機の旅なののがっかりだわ。」そう思いながら窓から目をそらし

ました。

そのときです。飛行機が雲を通り抜けると、明るい太陽の光が窓からさし込んで来たことに気づきました。窓から外を見ると、目が痛むほど空は青く、下の方には、壮観とも言える白さの、まるで綿の毛布のような雲が浮かんでいます。わたしは、その上に飛び下りて走り回りたくなりました。

それからの2時間、わたしは周りにある実に素晴らしい世界に見入っていました。そして、わたしの視界を遮っていた嵐あらしと厚い雲の上に、とても美しく明るい光景があるという事実に驚いていました。飛行機が下降し、雲の下の灰色の空を飛ぶころになるまで、嵐のことはすっかり忘れていました。

その日以来わたしは、母を亡くした心痛と孤独も含め、人生の嵐を幾度となく通り抜けてきました。しかしわたしは知っています。嵐には目的があり、雲の向こうには素晴らしい世界が広がっていることを。□

ほほえむべき理由

七十人会長会

ジョー・J・クリスチャンセン

実験をしてみましょう。いいですか？
ほほえんでみてください。作り笑いでもいいので、とにかくほほえんでみてください。

そのように言われたときに、皆さんの多くは、ごく自然に、しかも何の抵抗もなくすぐにほほえむことができるだろうと思います。皆さんは普段からよくほほえんでいることでしょうか。つまるところ、皆さんは本質的には幸せな人に違いないと思います。

また、少なくとも従順であるがゆえに、何とか唇の両端を大げさでない程度に上げ、この課題を果たした人もいることでしょうか。

しかしまったくほほえまなかった人も、わずかながらでもいたことでしょうか。そのような人たちがなぜほほえむことができなかつたのかと、わたしは考えてしまいます。

自問してみてください。「わたしはほんとうに幸せなのだろうか。」もしそうでないならば、そしてほほえむのが難しいならば、自己分析をしてみてください。助けを得られることも知ってください。困難は人生の一部である、と認識することが助けとなる場合があります。人生には良いときもあれば悪いときもあるのです。この事実から、わたしはマリオン・D・ハンクス長老の話思い出しました。

「短期の商用で機上の人となった父親〔がいました。〕5歳になる息子を連れていますが、かなりきつい出張になるので、息子を同伴したことに多少の後悔を感じていました。機体が上下に揺れ、向かい風や追い風にあおられると、機内には気分の悪くなる乗客も出てきました。父親が心配になって息子の顔をのぞくと、息子はニコニコしながらこう耳打ちしたのです。『ねえ、お父さん、子供を

喜ばせようとして、こんなことをするの?』」（『様々なチャンネル』『聖徒の道』1991年1月号、42）

主は聖文の中で、何度「元気を出しなさい」、「心を高めて喜びなさい」、「大いに喜んでください」とわたしたちに命じられていることでしょうか。わたしたちは、幸せでいることが戒めであり、単なる提案ではないことを覚えておく必要があります（教義と聖約78：17-19；31：3；127：3参照）。

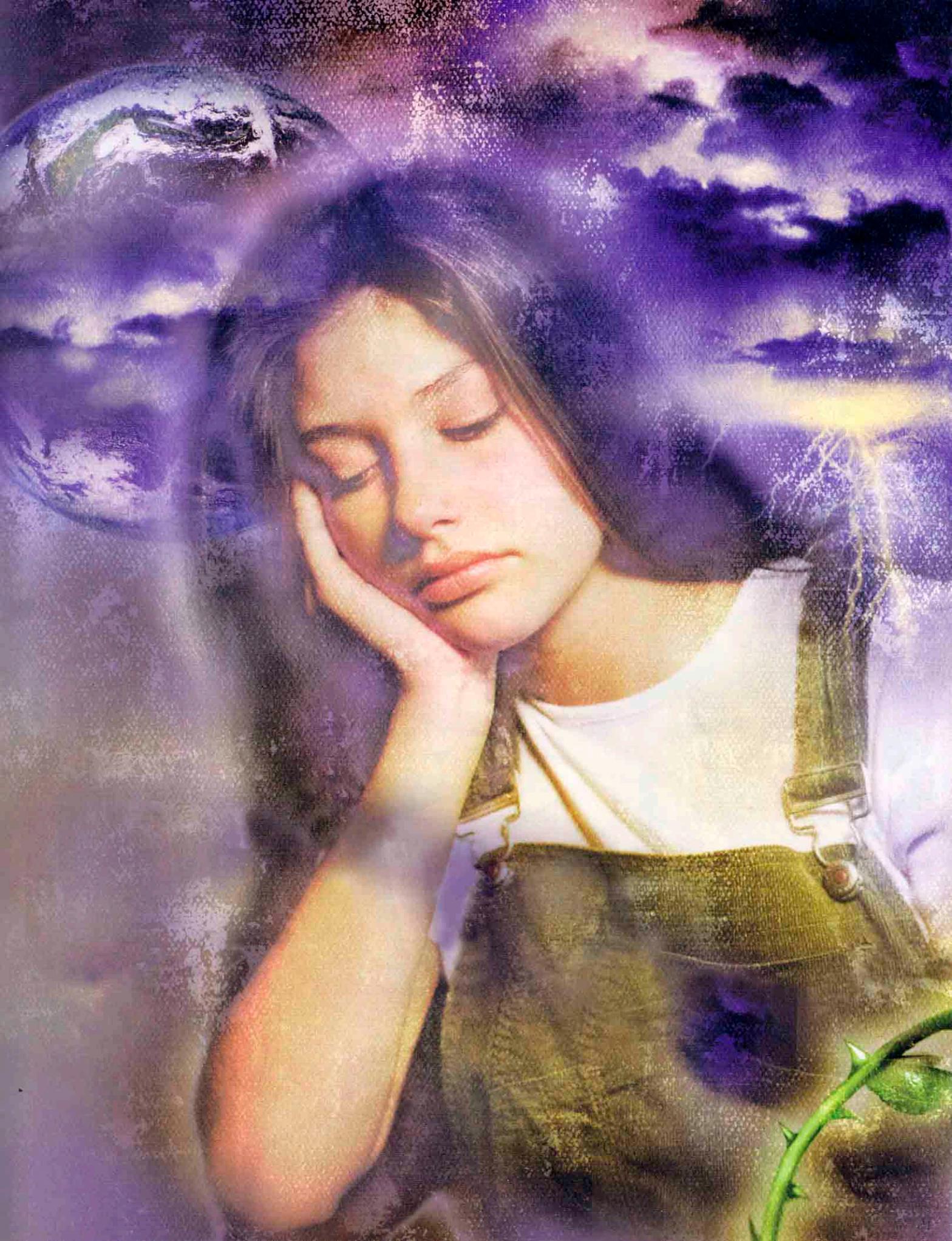
現代は世界史上、生きるには最もすばらしい時代のはずです。それは真実です。確かに問題も数多くあります。しかし感謝すべき祝福も非常に多く与えられています。

物質的に恵まれている家族は、自分たちよりも恵まれていない人々を忘れてしまう可能性があります。わたしたちが当然のように受け取っている祝福を受けていない人々のために、思いを寄せ、祈ることを提案したいと思います。

わたしたちには、享受している世俗的な祝福のほかにも、感謝すべき事柄があります。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である特権、つまり福音の光を思いにも霊にも心にも得られるという特権を受けていることに対して、十分な感謝の念を抱くようになる必要があります。そうすれば、人生がもっと意義あるものとなっていきます。

もちろん、圧倒されてしまうような事態が起き、とても感謝などできそうにもない時期もあります。わたしたちは皆、時には困難に直面し、物事がとても難しくなることもあります。しかしいずれの場合でも、後になってみれば、主がわたしたちに何かを教えておられたのだと気づき、そのとき学んだ教訓は現在だけでなく、これからの人生においても計り知れないほど重要になるのです。

ここで、ニール・A・マックスウェル長老について、また長老が10代のときに直面した試練の幾つかについてお話ししましょう。マックスウェル長老の両親はとても貧乏でした。若いころ長老は、多くの友達の家のように浴室が家の中になかったことを、とても恥ずかしく思っていました。長老は豚を飼育していましたが、そのことも高校で人気者になれない一因となっていました。また、



にきびも深刻な悩みとなり、自信や自尊心が試されました。長老は、周囲の人々から受け入れられる日など来るだろうか、と悩んだそうです。

長老はスポーツに大きな関心を寄せていました。特にバスケットボールが好きで、大学のときにはすでに、1年生にしてチームのレギュラーメンバーとして活躍できるほど上手でした。しかし後年チームから外され、好きなスポーツからも遠ざかるしかありませんでした。結果として、長老の言葉を借りれば、「言語の分野に目を向けることになりました。」そのことは、長老が大学や政界、教育界で務めを果たしていくうえで大きな祝福となりました。さらに、長老が今日、主の預言者、聖見者、啓示者の一人として仕えているので、わたしたちも皆その恩恵を受けているのです。

現在かこれから先のいつか、皆さんがどんな理由にせよ、落ち込んだり、落胆したり、ふさぎ込んだりするようなことがあったなら、そのようなときのために一つの大変実用的な提案があります。白紙を1枚用意して、その紙に特に感謝している事柄を思いつくまに書いてみてください。自分にとってきわめて重要な祝福を、それが何であれ、どのような順番であっても思いつくまに書いてみるのです。

そのリストを書き終えたなら、紙をもう1枚出してください。そして今度はそれら

の祝福に優先順位をつけながら、並べ替えてみてください。自分にとっていちばん重要な祝福は何ですか。2番目は何ですか。同様にして続けてください。

わたしのリストでは、お金で買える祝福に行き当たるには、最後の方まで読み通さなくてはなりません。わたしたちにとってきわめて重要な祝福はお金には代えられないものばかりです。信仰、証、家族といった祝福は、もし必要であれば命をかけてでも守りたいと思う祝福です。

もちろん、まず最初に感謝すべき贈り物は、御子という天の御父からわたしたちへの贈り物でしょう。聖文にはこうあります。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16) また『教義と聖約』では、このように教えています。「あなたの贖い主であるイエス・キリスト [は] ……自分の命を与えたほどにこの世を愛した。それは信じるすべての者が神の子となるためである。」(教義と聖約34:1, 3)

天の御父も、イエスも多くを与えてくださいました。わたしたちも何かを与えなくてはなりません。イエス・キリストの贖いの力によりもたらされる祝福を受けることができる、という祝福以上に、わたしたちが感謝すべき祝福はほかにありません。

このような祝福をすべて、あなたのリストに付け加えてください。そして、ほほえむ気分になれない日に、そのリストを取り出し、読み返し、いかに自分が祝福を受けているか思い起こしてください。そうすればほほえむのが簡単になり、元気がわいてくるでしょう。そして感謝するのがもっと容易になることでしょう。□





1. my Savior's love
2. my testimony
3. a friend like Julie
4. Mom and Dad
5. roses in the yard
6. good health
7. Freedom



わたしの手のうちに

フーコ・レイ

絵／ロバート・T・バレット

それは1983年、スペインのある晴れた春の日が始まろうとしていたときのことでした。兵舎はふだんよりもずっと窮屈に感じられました。しかし、わたしはこの日の来るのを心待ちにしていました。スペイン軍における1年間の兵役義務の中で、1日だけ休暇を取る許可がもらえたからです。わたしは、制服に不備があって、検査に不合格となり休みを取れなくなることはないように、自分の服装に最新の注意を払いました。わたしの計画では、軍のバスに乗ってブルゴス市まで行き、友人のリカルドに会い、一日をともに過ごすことになっていました。

検査は難なく合格し、間もなくリカルドに会うことができました。リカルドは車でブルゴスまで迎えに来てくれました。驚いたことに、リカルドはわたしもよく知っているマリー・カルメンという若い女性を連れて来ました。マリー・カルメンに最初に会ったのは、彼女がわたしの故郷、スペインのガルシア地区で宣教師として働いていたときのことでした。わたしは彼女に再会できてとても喜びました。わたしたち3人は、近くの公園に行き、そこで一日を過ごすことにしました。

リカルドは車をアルランツォン河畔の静かな場所に止めました。わたしたちは自分たちの人生や経験について互いに話しました。わたしは軍隊の中で受ける霊的な試練について話しました。周囲からの圧力があっても、戒めは守っていました。ただ、機会がないために、自分が保持していたメルキゼデク神権を行使することができず、そのことを心苦しく思っていました。時折、自分はこのような神聖な力に今でもふさわしい人間なのだろうかかと悩んだこともありました。

そのとき、マリー・カルメンは、自分も試練に直面していると語りました。彼女は、自分にプロポーズしてきたある男性とやがて会うことになっていたのですが、正しい決定を下さなければならないという、事の重大性に圧倒されていたのです。

その決定の日が近づいたときだったので、マリー・カルメンは、さらなる励ましと導きを受けるために神権の祝福を授けてもらえないだろうかとわたしに尋ねてきました。わたしは彼女の求めに驚き、恐れ of 気持ちさえ抱きました。自分には祝福を授ける準備ができていないと感じました。また、必要とされている助けを自分が与えられるとも思えませんでした。しかしどうしても頼まれたので、とにかくやってみることにしました。

わたしたちは車に戻りました。マリー・カルメンが前の座席に座り、リカルドとわたしは後ろの座席に座りました。御霊^{みたま}の助けによって靈感に満ちた言葉を語れるように、また神権の力がわたしの手のうちにとどまるように、



あった神権

まずリカルドに祈りをささげてもらいました。リカルドの祈りによって、わたしはすぐに平安な気持ちを感じることができ、恐れのお気持ちも消え去りました。

それから、自分たちが静かで、だれからも見られずじやまされない場所にいることを確認したうえで、わたしはカルメンの頭に自分の両手を置きました。すると祝福の言葉を語り始めるやいなや、慰めと励ましの言葉がわたしの唇からあふれるように出て来ました。そのとき何を語ったのか正確に思い出すことはできませんが、祝福が終わったとき、わたしの心は温かい気持ちでいっぱいになり、マリー・カルメンの顔は涙でぬれていました。マリーは、わたしの口から出た言葉は、まさしく彼女に必要な言葉だったと語ってくれました。今や彼女は、結婚のプロポーズに関し、正しい決定を下すことができると感じていました。

リカルドは、急いで運転席に戻り、わたしをバスの時刻に間に合うようにバス停まで連れて行ってくれました。

気がつくと、わたしは二人の友人に別れを告げ、薄汚れた軍のバスに乗り込んでいました。目に映る環境は明らかに変わってしまいました。しかし、その環境の大きな変化もわたしの味わった気持ち、すなわち主が神権の力によって人々を祝福されるという確信を消し去ることはできませんでした。その日の夜、2段ベッドに横たわりながら、自分の全身を包んだあの何にも勝る平安な気持ちをもう一度感じることができました。わたしは天の御父がわたしを信頼してくださったことに感謝しました。

7、8か月して、友人のリカルドは結婚しました。わたしは彼の結婚式に出席するためにマドリドへと向いました。例の男性、フェルナンドと結婚したばかりのマリー・カルメンも、夫婦で結婚式に出席していました。フェルナンドはわたしの手を固く握り締め、わたしの目をじっと見詰めながら、「君にはほんとうに感謝しているよ。君が祝福を授けてくれた、その人が今自分の妻になっている。ほんとうにありがとう」と言ってくれました。

フェルナンドの言葉はわたしの心に深い印象を残しました。主の御名によって働き、マリー・カルメンやフェルナンドのような人々の人生に祝福をもたらすこと、これほどすばらしい特権はほかにないと思いました。□



より良いホームティーチャー 訪問教師となるには

ホームティーチャーや訪問教師の召しを^{まっとう}するには
柔軟な姿勢、創造性、決意が必要とされます。

ケリー・リックス・アダムス

わたしが成長期を過ごした期間を通じて、母はずっと病気がちでした。そしてわたしが15歳を迎えたころには、母の病状が悪化してほとんど家から出られない状態になりました。この間、ワードから多くの会員が訪れてくれましたが、母の訪問教師の姉妹たちほど頻繁に来てくれた人はいませんでした。コリーン・グッドウィン姉妹は毎週日曜日にすべての集会の内容をメモしてそれを伝えてくれました。やがて彼女はすべての話とレッスンの内容を母に聞かせてくれるようになりました。その間、同僚のマリアン・ユーバックス姉妹は母のはれ上がって痛む足をマッサージしてくれました。

この姉妹たちは1、2度そうしてくれたものではありません。何年間もそれを続けてくれたのです。二人の姉妹たちはそれぞれ仕事を持っており、そのうえ自分の家族がありました。けれども、助けが必要なときはいつでも、母の訪問教師にお願いできることをわたしたちは知っていました。この姉妹たちが示してくださったのは2マイルどころではなく何マイルも行く精神でした。姉妹たちは母のかけがえのない友達になりました。姉妹たちは若い女性だったわたしにほんとうの慈愛とはどのようなものかを教えてくれました。—トレーシー・ライト、ユタ州ウエストジョーダン・プレーリーステーク、プレーリー第5ワード所属

ウェインは以前にフットボール選手をしていました。大柄で、力持ちでした。性格は外向的で、面倒見のいい長老でした。ドンは物静かですが霊的な力強さを備えたすばらしい同僚でした。

二人は我が家のホームティーチャーとして初めて訪問して下さったときから、わたしたちに関心を寄せていることが分かりました。最初に訪問したときから、率直に真心を込めて話す姿勢は変わりませんでした。あまり活発でない会員だったそれまでのわたしは、教会に関係する事柄すべてに懐疑的でしたし、ワードの会員たちがわたしに働きかけてくる動機にしばしば不信感を抱いていました。けれどもこれら二人のホームティーチャーが正しい理由で訪問してくれているのが、わたしには分かりました。ワードの統計数字を上げるために訪問しているのではありませんでした。監督から頼まれたのでわたしたちの様子を見に来たのでも



写真：マイケル・バードン



ありませんでした。彼らが訪問しているのは現代の預言者を信じているからであり、またホームティーチングが神権の召しを尊んで大いなるものとする機会であると信じているからだったのです。——デニス・ピーコック、ユタ州南ケーンズステーキ、ケーンズ第34ワード所属

ホームティーチャーと訪問教師は、人々の生活を変えることができます。この靈感あふれるプログラムを通して受けた霊的・精神的な力、憐れみ、心のこもった奉仕を大切な思い出として心に秘めている会員は大勢います。このようにホームティーチャーと訪問教師は人々の生活に大きな力を及ぼしていますが、「互いに重荷を負い合う」責任を果たす過程には克服しなければならないチャレンジが数多く待ち受けています(モーサヤ18：8)。

割り当てを受けている家族を訪問するために、同僚がお互いの時間を調整することは必ずしも容易ではありません。しかしこの責任は、神権者に与えられた啓示に基づく定めに従って二人ずつ組になって果たさなければなりません(教義と聖約20：47, 53；42：6参照)。同僚同士の都合を合わせ、さらに訪問を受ける人の日程と合わせることで、この調整はますます難しくなります。時にはホームティーチャーと訪問教師が、訪問可能な家族数を超える割り当てを受ける

ことがあります。訪問先までの距離、所要時間、費用が過大になることもあります。また、ホームティーチャーと訪問教

師は、特別な問題を解決するために御霊を受けなければならない、というチャレンジを受けることがあります。これらがつまずきの石となって、人々に祝福をもたらすという主の業を行う妨げとなってしまうことがあります。

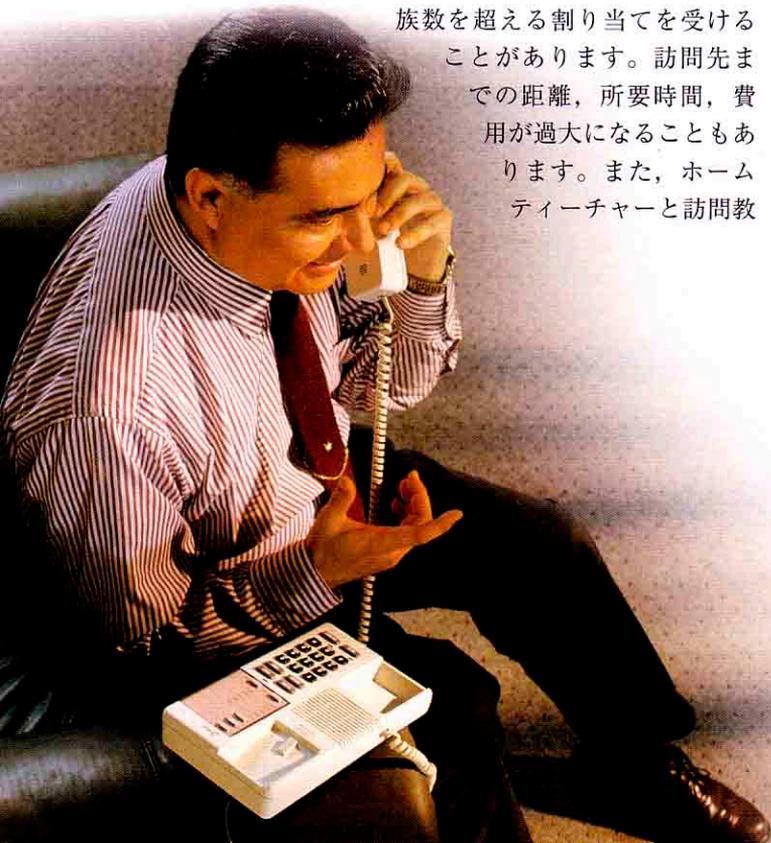
この記事では、人々が見いだした有効な解決方法やアイデアを紹介します。ホームティーチャーや訪問教師の召しを受けている皆さんが、彼らの経験から大切なものを見いだすことができるよう願っています。これらの方法やアイデアは、柔軟な姿勢を持ち、創造性を発揮し、義務を果たす決意をすることの大切さを教えています。それらは会員たちが「教え……教会員を見守り」、「各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧め」る努力をするうえで鍵となるものです(教義と聖約20：42, 47)。この記事の中で採り上げられている原則は、世界のどの地域で働いているかにかかわらず、ホームティーチャーと訪問教師にとって有益なものです。

長期の約束を取りつける

ホームティーチングと家庭訪問を実施する際に問題となることの一つは訪問する日の約束を取りつけることです。「ある人たちは毎月の訪問日を前もって決めてしまうことによってこの問題を解決しています」とニュージャージー州チェリーヒルステーキのパートラム・C・ウイリス会長は話しています。「例えば、第1日曜日の午後、または第2水曜日の晩は必ず訪問することを決めておいて、家族や個人がそれを承知しているというような決め方です。」

フロリダ州ココアステーキのパームベイ第1ワードで訪問教師の責任を受けているキャスリーン・バーガー姉妹はこの方法に賛成しています。「わたしたちは数人の姉妹を受け持っています。全員が毎月第1火曜日の午前中にわたしたちが訪問することを知っています」とバーガー姉妹は述べています。「わたしたちは皆、教会から遠く離れた地域に住んでいるため、時々寂しい思いをしています。ですからこの訪問はとても大切です。姉妹たちは訪問教師が来るのを楽しみにしていますし、『火曜日の午前中には訪問がある』と確信しています。」

ホームティーチャーと訪問教師は口をそろえて、訪問先の人々に彼らの生活の中で何か、の助けになりたいと



主の手に使われる者

心から思っていることを伝えることが大切だと言います。訪問日程を長期間にわたって決めることや、あるいはあなたと訪問先の人々にとって都合のよい日（都合の悪い日を知らせる）2日か3日提案することによって、そうした助けたいと思っている気持、ちを表すことができます。様々な案を出して、それについて話し合うときに、家族に対する愛と関心を示してください。時には柔軟性と妥協が必要とされますが、長期にわたる日程を決めておくことから来る安心感はホームティーチングと家庭訪問から受けるプレッシャーを驚くほど軽減することができます。

特別な支援を求められているときに柔軟に対応する

多くの地域では、この責任を無理なく果たすことができる活発会員の数よりも訪問の対象となる個人や家族の数の方が多いのが現状です。テネシー州チャタヌーガステークのフォートペイン支部にはローマン・リリー支部長を含めて活発な神権者が3人しかいません。にもかかわらずこれら3人の神権者は48家族をホームティーチングの責任として受けています。彼らは通常そのうちの45家族を訪問しています。

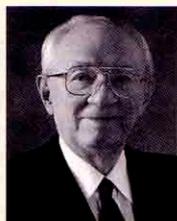
「わたしたちは毎月2回の土曜日をホームティーチングに当て、それぞれ夫婦で訪問しています。姉妹たちは家庭訪問も同時に行います」とリリー支部長は説明しています。家族に特別な事情があり、監督または支部長が承認した場合に行われる、夫婦によるこのような訪問は、ホームティーチングと家庭訪問の双方で、訪問として見なされます（『メルキゼデク神権指導者手引き』5参照）。

わたしたちが訪問するときは朝、家を出て、帰宅は午後になるのが普通です。土曜に会えない家族を訪問するために週日の夜、時間を空けることもあります。きわめてまれですが、教会の集会の前か後に訪問することもあります。ワードの端から端まで距離にして約115キロと広いのですが、わたしたちにはホームティーチングを行う機会と責任が与えられていることを理解しています。」

フォートペイン支部で実施しているように、夫婦がそれぞれホームティーチャー、訪問教師として一緒に訪問する必要があるような場合はめったにありません。ほかの地域の神権指導者は、これとは別の方法を取っています。

例えば、アイダホ州ケアリーステークには全会員を訪

長年にわたり歴代の大管長と中央扶助協会会長は、ホームティーチングと家庭訪問の目的と重要性を強調する言葉を述べています。



ゴードン・B・ヒンクレー大管長

大管長在任期間—1995年—現在

「『教師の義務は、常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強めることである。』（教義と聖約20：53）これは主の戒めです。わたしはホームティーチャーと訪問教師が二つのことを経験するよう希望しています。第1は、彼らの偉大な召しに伴う責任を果たすというチャレンジであり、第2は、会員に働きかけること、特に活発でない会員に働きかけることによって得られる喜びあふれる成果です。わたしはこれらの『教師』たちが導きを求めるためにひざまずいて祈りをささげた後に、出て行って、さまざま^{ほうとう}放蕩息子を教会の群れに連れ戻す業を熱心に行うことを希望しています。ホームティーチャーと訪問教師がこれらのチャレンジにこたえるならば、彼らは主の手に使われる者となって、人々を主の教会と王国に連れ戻すことからもたらされる甘くすばらしい気持ちを味わうであろうことをわたしは心から信じています。

この回復された福音が持つ美しさと不思議を知ってしばらくしてから、何らかの理由で去ってしまった兄弟姉妹に手を差し伸べていただきたいのです。

民の家を訪れ、福音の原則にもっと忠実に生活するよう教え、罪悪や、陰口、悪口のないように取り計らい、信仰を築き、家族が物質的に不足なく生活していることを確かめる責任から免れることができないことをすべてのホームティーチャーに知っていただきたいのです。これは非常に重大な責任です。真剣に受け止めなければなりません。けれどもこの責任は耐え切れないほどの重荷となるものではありません。もう少し信仰を行使するだけのことです。わ

たしたちが最善の努力を傾げるだけの価値があります。」
(Ensign『エンサイン』1997年3月号、27)



エズラ・タフト・ベンソン大管長

大管長在任期間—1985年—1994年

「ホームティーチングと家庭訪問は靈感によって与えられたプログラムです。このプログラムでは活発かそうでないかを問わずすべての教会員を毎月訪ねることが求められています。ホームティーチングと家庭訪問にもっと力を入れてくださるようお願いします。」(『エンサイン』1987年9月号、4)

「わたしは、施行された当初から神の靈感を受けて進められてきた神権プログラムについてお話する必要があると感じています。このプログラムによって心を揺り動かし、生活を改善し、人を救うことができます。このプログラムは天父の承認のしるしを受けています。これは非常に重要なプログラムであって、忠実に実行するなら教会の靈性を一新し、個々の会員と家族を昇栄に導く助けとなるでしょう。

そのプログラムは神権ホームティーチングを指します。
……

「聖徒たちを見守り、教会の使命を達成するための神権による手段なのです。ホームティーチングは単なる割り当てではなく、聖なる召しなのです。」(『教会のホームティーチャーへ』『聖徒の道』1987年7月号、53)

「忘れないでください。影響力のあるホームティーチャーになるには、質と量の双方が不可欠なのです。皆さんは質の高い訪問を行う必要がありますが、同時に、どの家族とも毎月ホームティーチングを行う必要があるのです。担当家族すべての牧者として、活発な家族にも教会をお休みしている家族にも、99匹の子羊に手を差し伸べるだけで満足してはなりません。目標はあくまでも毎月100パーセントのホームティーチングでなければなりません。」(『教会のホ

問するだけの活発会員がいません。この問題を解決するために神権指導者は、訪問を最も必要としている会員へと導かれるよう御霊に頼る^{みたま}ことによってこの問題を解決しました。ステーク会長会のマイケル・チャンドラー第一副会長はこのように説明しています。「わたしたちは毎年ワードの指導者に、ホームティーチャーを必要とする家族について導きを求めて祈ること、そのうえで割り当てを再評価するよう要請しています。この方法によって、何年かのうちに全会員を訪問することができます。」

同じように、担当家族をすべて訪問できない場合に、訪問を最も必要としている家族を御霊の導きによって知らされた経験を持つホームティーチャーと訪問教師が数多く報告されています。家庭訪問だけは、訪問教師が割り当てられた人々に会うことができない場合に、電話と手紙による連絡を訪問に換えることができます。

活発会員に比べてあまり活発でない会員の比率が高い地域では、神権指導者の承認を受けた場合に、専任宣教師が、あまり活発でない会員を訪問する割り当てを受けているメルキゼデク神権者の同僚として働くことができます。

メッセージを提示する

あるホームティーチャーや訪問教師にとっては、訪問先で和やかでくつろいだ雰囲気となっている中で、改めて正規のメッセージを伝えることが難しい場合があります。その場の全員が活発会員であっても、日常的な内容の話から靈的なメッセージを分かち合う時間にうまく移行することが難しい場合があります。さらに、一つのメッセージを成人、10代の若人、子供と異なる年齢層の人々に対して、同じように訴えるものを与えることも容易ではありません。福音について話すことに気乗りがしない人や福音について話すことを拒否している人を訪問するホームティーチャーや訪問教師にとって、この問題はもっと深刻です。

けれども、相手に警戒感を与えずに靈的なメッセージを提示する方法が幾つかあります。福音について話すことに気乗りがしない人には、一人で読んでもらえるようにパンフレットや記事の写しを置いてくることを、ミズーリ州ケーブジラードステークのラリー・W・ワトキンス会長は提案しています。あるいは、これらの会員を特別なパーティー、ファイヤサイド、活動、プログラム、

集会などに招待して、そのテーマについて、あるいは彼らが参加することによってどのような利点があるかなどについて話し合うのも一つの方法です。

「ホームティーチングや家庭訪問に出かけるときに御霊の声に耳を傾けることが大切です」とテキサス州カレッジステーションステークの高等評議員であるジャック・クック兄弟は語っています。「わたしたちのステークに母一人娘一人の家庭を訪問している大祭司グループリーダーと同僚がいます。この家族は活発ですが、霊的に『空虚な状態』が続いているとホームティーチャーに話しました。霊的に進歩しているという意識がほとんど感じられなかったのです。

ある日この家族を訪問していたホームティーチャーはこの姉妹に神殿に参入することを考えてもらおうという強い気持ちを感じました。それを話すと母親の目が輝きました。彼女はこれまでそのようなことを実現できるとは考えてもいませんでした。」

「神殿参入を目指して、この姉妹は幾つかの目標を立てました。そして進歩を遂げました。彼女は実に驚くべき成長を見せました」とクック兄弟は話しています。

「神殿に入った日の彼女は喜びで満ちあふれていました。ホームティーチャーは御霊のささやきに耳を傾け、そして、彼女の生活に変化をもたらしたのです。」

メッセージを受ける

訪問を受ける家族や個人が忍耐することによっても、家庭に御霊を招くことができます。「わたしは家庭訪問を欠かさず果たしてきましたし、わたしも訪問教師から欠かさず訪問を受けてきました」と話すユタ州西リーハイステーク、リーハイ第3ワードの会員であるリンダ・スタウト姉妹は自分の経験を分かち合ってくれました。「けれどもエイリーン・ハーディー姉妹とワンダ・ジョンソン姉妹がわたしの訪問教師になったときに初めて、主の娘たちを見守り、祝福し、教える手段としてなぜ主がこのプログラムを示されたかが分かりました。

もちろんハーディー姉妹とジョンソン姉妹は祝日にいろいろなものを子供たちに持って来てくださり、わたしの誕生日を覚えていてくださいました。けれどもわたしが最も大きな感銘を受けたのは、毎月姉妹たちが読んで



ームティーチャーへ』『聖徒の道』1987年7月号, 56)



イレイン・ジャック

中央扶助協会会長在任期間—1990年—1997年

「家庭訪問を通して、わたしたちはお互いに母親、姉妹、助け手、気の合った仲間、友人としての役割を果たします。」(Church News『チャーチニュース』1993年9月4日付, 6)

「わたしたちは家庭訪問によってお互いに手を差し伸べます。わたしたちの手は、時には口では伝えられないことを伝えることができます。優しい抱擁は文字や言葉よりもはるかに多くのことを伝えることがあります。ともに笑うことがわたしたちを一つにしてくれます。分かち合うひとときが心に新たな息吹を与えてくれます。わたしたちは必ずしも、苦しんでいる人の重荷を持ち上げて軽くしてあげられるわけではありません。けれども、重荷に耐えられるようにその人を高めることはできます。」(『チャーチニュース』1992年3月7日付, 5)

「個人的な訪問が持つ価値を決して過小評価してはなりません。教会の初期の時代にノーブーで姉妹たちが個人と家族の状態を調べるために情報を求めて歩いたように、オーストラリアのパスでもタヒチのパペーテでも姉妹たちは隣人の家庭を訪れて、お互いに関心を示しています。このようにわたしも、お互いに関心を示し合っている全世界の姉妹たちの一員であることを考えると胸が躍ります。わたしは家庭訪問に出かけるときに時々そのことに思いをはせ、今この瞬間にマニトバ、カナダ、メキシコ、フランスそしてロシアでも姉妹たちが家庭訪問を行っているかもしれないと考えることがあります。わたしたちだけでなく、もっともっと大きな規模で繰り広げられている業に携わっていることを考えると感動を覚えます。」(Eye to Eye, Heart to Heart『目と目を合わせ、心と心と通わせる』142—143)

くださる家庭訪問教師メッセージでした。これらのすてきな姉妹はお二人とも70代でした。文字がよく見えなかったり、口ごもって言葉がうまく言えなかったりすることが時々ありました。けれども一生懸命にメッセージを読んでいるその姿から、姉妹たちが主から与えられたとても大切な責任を果たすためにメッセージを伝えようとしておられることがよく分かりました。」

毎月ただ読んでいるだけのメッセージにうんざりしている会員たちがいる一方で、スタウト姉妹はそれがどのような形でもたらされるのであっても、福音のメッセージを受け入れることの大切さを知りました。スタウト姉妹はメッセージを謙遜に受け入れること^{けんそん}によって、御霊と、訪問教師の愛を感じる事ができました。

距離の問題

末日聖徒の居住者が密集している教会ユニットでは管轄する地域の面積がわずかに数平方キロという場合もありますが、多くの教会ユニットは数百平方キロの地域を管轄しています。アラスカ州フェアバンクスステーキのノーススロープ支部は2万平方キロの地域にまたがっています。さらに1年間のうち数か月は一日中太陽が昇りません。そして気温は摂氏零下46度まで下がります。「そのうえ、冬の間は北極熊の問題もあるのですよ」と約5年間支部長を務めたゲイリン・フラー兄弟は苦笑しながら語ります。

「地理的に言えばわたしたちの支部は教会で最大の支部かもしれません。カナダの国境付近から、ロシアの国境付近まで会員が住んでいます。これらの地域へ行くには飛行機しかありません。

言うまでもありませんが、これらの地域の訪問は電話で行います。担当する家族に対しては毎月電話をします。家族に若人がいれば、若い男性会長と若い女性会長も電話をかけます。こうして1か月に何回も電話を受ける家族がいます。ほかには、大会の資料を送ったり、教会の新しい方針や情報を伝えたりしています。」

家を訪れるのであれ、電話をかけるのであれ、会員たちとの接触は続けられています。「それはとても大切なことです。わたしたちは皆それをよく承知しています」とフラー兄弟は言います。彼自身もホームティーチャーとして10家族を担当しています。

ノーススロープ支部ほどではありませんが、ミネソタ

州デュルースステークも広大な地域にまたがっています。「わたしたちの地域は現在経済不況にあえいでいます。多くの会員たちは切り詰めた家計の中でやり繰りしています」とステーク扶助協会会長のガブリエル・プラージュ姉妹は述べています。「ガソリン代もままならない状態です。家庭訪問を行うことが家計に大きな影響を与えるのです。

姉妹たちは毎月訪問するのが理想であることを知っています」とプラージュ姉妹は続けます。「けれども、大切なことは何かをすることです。何もしないことのないようにしてください。もし1か月に全員を訪問することができなければ、少なくとも一人か二人を訪問してくださるようお願いしています。訪問できない姉妹たちには少なくとも電話をかけるか、手紙を出すようにします。そして、翌月には別の姉妹を一人か二人

訪問します。こうすれば、四半期ごとに全員を1回は訪問することができます。」

老齢のために運転ができない姉妹たちも手紙によって、家庭訪問に参加しています。「これらの姉妹たちには何人かの姉妹たちに手紙を書いてくださるようお願いしています。手紙を出す先にはあまり活発でない姉妹も入っています」とプラージュ姉妹は述べています。「手紙では扶助協会ホームメイキング集会の案内、近日常に予定されているワードの活動をお知らせするとともに、それらの集会に参加するよう呼びかけます。最近ある姉妹は、何年間も手紙を出し続けてきた相手の女性からお礼の手紙を受け取っています。手紙を書くことも価値のある仕事なのです。」

10代の若人を訓練する

メルキゼデク神権者はホームティーチングの同僚としてアロン神権者を割り当てられることがあります。すると、特別なチャレンジを経験するこ



とになります。アロン神権者は学校、活動、仕事、友達などで忙しい毎日を送っているからです。青少年は経験が十分でないため、ホームティーチングの責任が果たす役割や重要性を理解していないこともあります。したがって彼らに適切な訓練を施し、同僚として参加できるようにすることが重要になってきます。

「いつの日かわたしの同僚のジェレド・バロットも指導する立場に立ちます」とテネシー州チャタヌーガステーク、ヒクソンワードの会員であるリック・ヤングブラッド兄弟は考えています。「ジェレドは教師に聖任されたばかりでしたが、ホームティーチャーとしてワードの会員たちを見守る召しを受けていることをすでに理解していました。」

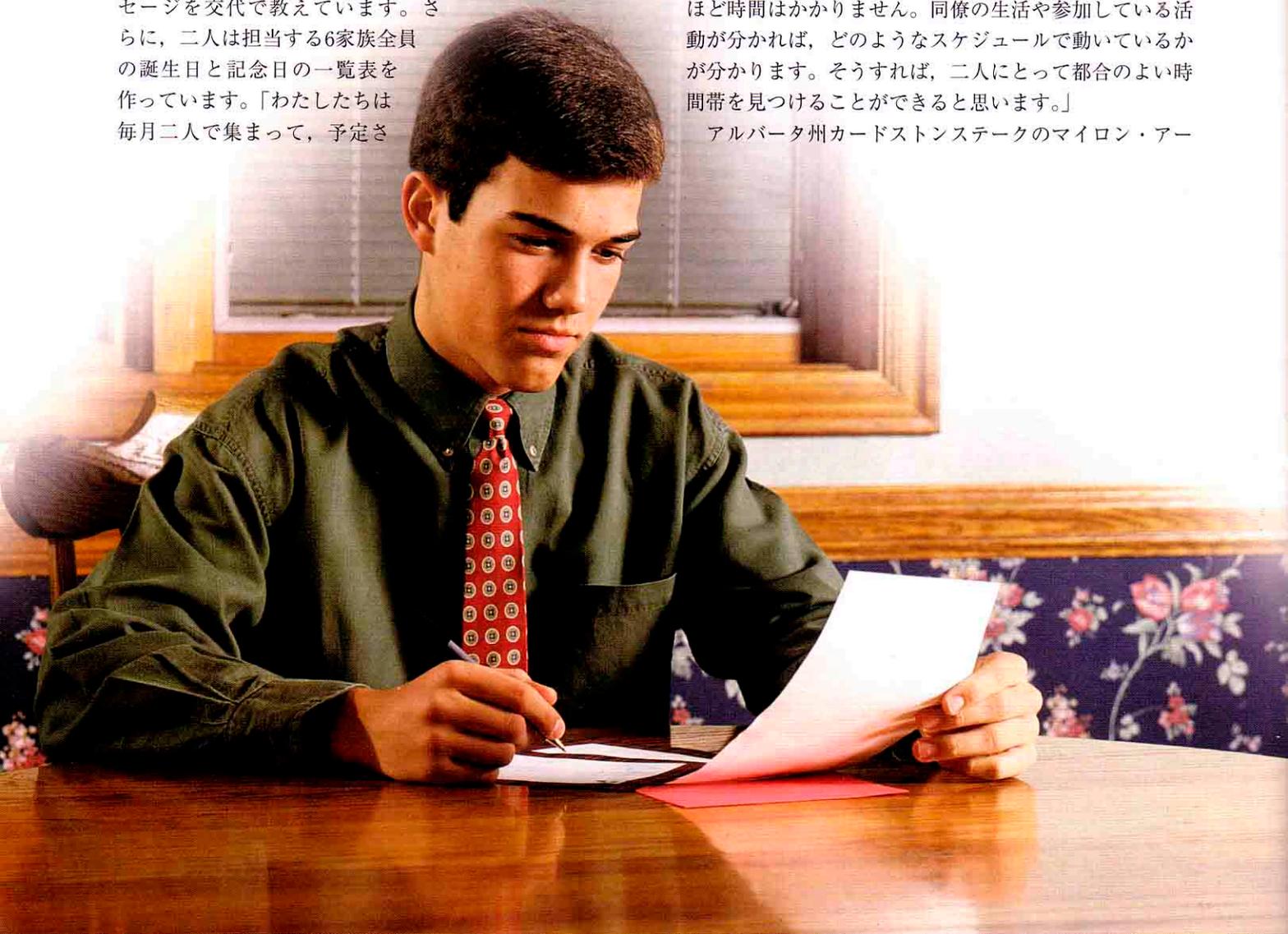
ヤングブラッド兄弟とジェレドは毎月のメッセージを交代で教えています。さらに、二人は担当する6家族全員の誕生日と記念日の一覧表を作っています。「わたしたちは毎月二人で集まって、予定さ

れている特別な行事などのために手紙を書きます。そして、ジェレドが手紙を投函します。わたしはどうしたらもっとよく担当家族の必要を満たすことができるか、担当家族が御霊を感じられるようにどのようにして助けることができるかをいつもジェレドに尋ねるようにしています」とヤングブラッド兄弟は述べています。

ワトキンス会長はステーク内の監督に対して、両親を交えてアロン神権者とともにホームティーチングの大切さについて話し合うよう奨励しています。「両親は青少年が召しを果たすことができるように導きと励ましを与える力を持っているのです」とワトキンス会長は説明しています。

彼はまた、メルキゼデク神権者に対して、同僚についてよく知るように勧めています。「関心を示すのにそれほど時間はかかりません。同僚の生活や参加している活動が分かれば、どのようなスケジュールで動いているかが分かります。そうすれば、二人にとって都合のよい時間帯を見つけることができますと思います。」

アルバータ州カードストーンステークのマイロン・アー



サー・ピーターソン会長はホームティーティングの帰りにアロン神権者とアイスクリームを食べることを提案しています。「ホームティーチングに出かける前に、必ず同僚と一緒に祈ってください。これによって御霊を招き、二人はすばらしい経験をすることができます。」

子供たちの面倒を見る

家庭訪問にも独特な一面があります。「訪問する際に幼い子供たちを訪問先へ連れて行きたくないと思っている訪問教師がいます。子供たちをだれかに預けようとしてもお金はかかるし、問題が起きないとも限りません」とユタ州デューシェーンステーク、デューシェーン第2ワードの扶助協会会長キャリア・フープス姉妹は話しています。「わたしたちのワードには母親が家庭訪問に行っている間子供たちを預かってくれる姉妹たちがいます。この姉妹たちにとって、託児が訪問教師としてその月に果たす責任なのです。」

また、わたしたちのワードには『夕べの地区』という制度があります。この制度は、その地区内に住む訪問教師と訪問を受ける姉妹の双方が夕方以降に訪問の約束を希望する場合のために設けられました。この地区では、訪問教師のご主人たちが仕事を終えて帰宅してから子供たちの面倒を見ることになっています。また、仕事を持っているために日中は訪問することも訪問を受けることもできない姉妹たちのためにも便宜を図ります。」

柔軟に対応することがぜひとも必要ですとフープス姉妹は付け加えています。「ワードには、午前7時に訪問してほしいと言う姉妹がいます。なぜそれほど早い時間かといえば、ほかに時間が取れないからです。二人の姉妹がその割り当てを引き受けました。様々な人々の必要を満たすために、職場の昼休みの時間やそのほかの時間に家庭訪問をしている姉妹もいます。」

ニュージャージー州チェリーヒルステークのムーアズタウンワードで以前に扶助協会会長を務めていたクリスティン・ウィリス姉妹はワードで多くの姉妹が交代で託児をしていると報告しています。「姉妹たちはこう言います。『わたしが家庭訪問に行くときはわたしの子供たちの面倒を見てね。あなたが行くときはわたしが見るから。』こうしてみんなが恩恵を受けて、家庭訪問の責任を果たしています」とウィリス姉妹は説明しています。



バーバラ・ウインダー

中央扶助協会会長在任期間——1984年—1990年

「わたしたちは家庭訪問を通してどのように救い主に従うかを学ぶことができます。愛の手を差し伸べ、無私の奉仕を行うときに、わたしたちは主の手に使われる者となって、物質的、精神的、霊的な助けを必要とする姉妹たちを助け、姉妹たちの心を揺り動かし、生活に変化をもたらすのです。家庭訪問は福音の真髄であり、モーサヤ書第18章8節から9節に記されている福音の原則を実践する機会を与えてくれます。『互いに重荷を負い合うことを望み……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み……永遠の命を得られるように、いつでも……神の証人になることを望んでいる。』（『エンサイン』1997年3月号、33）



スペンサー・W・キンボール大管長

大管長在任期間——1973年—1985年

「わたしは訪問教師について考える度に、〔ホーム〕ティーチャーについても考えてしまいます。そして、訪問教師の義務は多くの点で〔ホーム〕ティーチャーの義務と相通じるものがあることを思い浮かべます。簡単に言えば、『常に教会員を見守り』——1か月に20分間ではなく常にです——『彼らとともにいて彼らを強め』——ドアをノックすることではなく、彼らとともにいて、彼らを高め、励まし、力づけ、強めるのです——『罪悪がないように、……

かたくなになることのないように……、陰口、悪口のないように取り計らう』のです（教義と聖約20：53-54）。……

立派な働きができるように、訪問教師は気高い目的を持ち、それをいつも心に留めて、大きなビジョンと、決して冷めることのない熱意と、積極的な態度、それに大きな愛を持つ必要があります。」（『エンサイン』1978年6月号、24-25）

「ホームティーチャーが皆、伝道、系図、福祉をはじめとするあらゆるプログラムの実施に関与するとき、彼らはその名称どおりのあらゆる意味において真のホームティーチャーとなります。彼らが担当する家族の生活におけるすべての側面、すなわち霊性面、俗世にかかわる面、財政面、道德面、結婚生活面について、世話をするようになれば、それは祝福と幸せに満ちた日となることでしょう。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編、524）



バーバラ・B・スミス

中央扶助協会会長在任期間——1974年—1984年

「わたしたちの間において、援助を必要としている人々を見いださなければなりません。次に、神から与えられている才能を使って彼らに慈愛を示すこと、また慰めを与えるためにあらゆる手段を講じること、さらにこれら二つを賢明に用いることがわたしたちに求められています。この責任は扶助協会が組織された当初から与えられてきたものです。現在もこの責任はわたしたちに与えられています。わたしたちはお互いの家庭を訪れて、援助を必要としている人々を見いだすことができるように心をよく備え、そして友情を示し、必要に応じて助けを与え、毎日の生活で遭遇するチャレンジに立ち向かうよう励まさなければなりません。」（『エンサイン』1997年3月号、37）□

定期的な面接が果たすすばらしい効果

「ホームティーチングと家庭訪問を成功させるには、指導者、ホームティーチャー、訪問教師の全員が、この召しは主から与えられた召しであることを理解すべきである」と各地の指導者は異口同音に語っています。

『新約聖書』の時代から預言者たちは、熱心にお互いを助け、仕えるようにとの勧告を与えています。ペテロはペテロの第一の手紙第5章2節から4節で次のように教えています。「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。

また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。

そうすれば、大牧者が現れる時には、しばむことのない栄光の冠を受けるであろう。」

教会歴史の初期の時代に、神権者は「各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように」、そして「常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強める」ように命じられました（教義と聖約20：51、53）。

ホームティーチャーと訪問教師にその召しが神聖なものであることを理解させる最も良い方法は、面接を定期的に行うことです（『メルキゼデク神権指導者手引き』9-10；『扶助協会手引き』3-4、9参照）。「報告する制度を確立することが絶対に必要です。できれば指導者との面接を通じて、ホームティーチャーと訪問教師に彼らの働きが大切であることを伝えます」とアイダホ州ケアリーステークのR・スペンス・エルズワース会長は語っています。「担当家族に関して提供する情報がその家族を助け、祝福をもたらすために使われることをホームティーチャーと訪問教師に知らせる必要があります。」

ニューハンプシャー州コンコードステーク、マンチェスターワードで長老定員会会長を務めていた当時のダン・マクレイン兄弟と二人の副会長は、1か月に平均30人のホームティーチャーを面接しました。「面接にはそれほど長い時間をかけませんでした。教会の集会の前後や週日に時間を見つけて面接を行いました。

まず、何を行ったか、ホームティーチングについてどのように考えているかを神権者に質問しました。わたしたちはこの時間を使って、感謝の気持ちを表し、動機づ

けを与え、ホームティーチャーの召しがどれほど大切かを理解させる努力をしました。さらに、同僚との問題や日程の調整の問題など、ホームティーチングについて問題があればそれを解決するように努めました。

それから、担当する家族それぞれが必要としている事柄について一緒に検討しました。大切なのはそれだけで話を終えないことでした。もしある家族に、学校の問題で困っている娘がいれば、わたしたちは正規の経路を通じて若い女性の会長に参加してもらいました。経済的に

問題を抱えていて、援助を必要とする家族があれば、監督と扶助協会会長に知らせ

ました。わたしたちはホームティーチングの面接で得た情報を最も適切に処理できる場所へ持って行きました。

ホームティーチャーにこのプログラムが機能していることを知らせれば、彼らは自分たちが大きな変化をもたらしていることに気づくのです」と言ってマクレイン兄弟は話を終えました。

テネシー州チャタヌーガスステーキのホームティーチャーは過去数年間、担当する会員たちの約90パーセントを毎月訪問してきました。「ホームティーチングの面接において、また一部のホームティーチャーの場合は電話で、報告を受けることが鍵です」とステーキ会長会のジェームズ・L・バロット第一副会長は話しています。

「わたしたちはこの成功を喜んでいますが、満足しているわけではありません」とステーキ会長のダラス・ライン兄弟は言います。「なぜならば、わたしたちは、質は量についてくると信じているからです。訪問しないでおいて、質の高いホームティーチングを実現することはできません。神権者が担当する家を訪れて初めて、質を考慮することができるのです。」

時間、距離、個性、態度、とチャレンジはまだあります。「これらは皆、大切な問題です」とウィリス姉妹はそれらの問題があることを認めています。「けれども、わたしたちはホームティーチャーと訪問教師自身がバプテスマと

神殿で交わした聖約を受け入れ、聖約に従って生活するように助けることによって、実は多くの問題の答えを見つけられると考えています。

それを実行したときに、わたしたちは自分たちに与えられている召しを果たしていることを実感しました。わたしたちは数字や報告のためでなく、そのように行うことを聖約しているのですから。経験したことや知ったことを報告し、ほかの人々と分かち合うことは必要です。けれども究極的には、わたしたちがホームティーチングと家庭訪問を行うのは、主と主の子供たちを愛しているからです。」□





エステルからの 最後の贈り物

ベス・デイリー

ユ タの凍えるように寒い1月の朝、足早に歩く救急職員、哀しく響くサイレンの音、そんな中で最初にわたしの目に留まったのは、エステルの両手でした。その長く太い指、かつては人々に奉仕するために忙しく働いたあの指も今は硬直して微動だにしません。わたしは自分の両手を伸ばしてエステルの両手を温めました。するとそれまで閉じていた彼女の左右の目が少しまばたきしたのです。彼女は辺りを見回しました。まるで自分のそばにだれがいるのか確認しようとしているかのようでした。

わたしは彼女のパジャマのしわを伸ばし、毛布をかぶせながら彼女を安心させようと言いました。「心配しないで、エステル。あなたの体がどうなっているのか、お医者さんたちが、きっと突き止めてくれるわ。」その言葉にエステルの気持ちが和らいだのを感じました。それからわたしたち二人は救急車の中に押し込まれ、近くの病院へと急ぎました。

太陽が単なる光の源ではないのと同様に、エステルも単なる隣人ではありませんでした。わたしが10代のとき、エステルはその両手をわたしに差し伸べてくれました。あの両手が中学校の図書館に並ぶ数々の名作にわたしを導いてくれたのです。エステルの両手を通して、近隣に住む人々は、40年以上にわたり、知識と奉仕の恩恵にあずかりました。エステルはたくさんの若人を雇って、彼らに自分の所有する果樹園の手入れの仕方だけでなく、周辺地域の美化の方法から隣人の愛し方に至るまで根気強く教えました。エステルは昔からの隣人であれ、最近引っ越して来た隣人であれ、同じように付き合いおうとし

ました。キルトにたとえるなら、エスターの両手は、わたしたち近隣のブロックという布切れを縫い合わせ、友情というキルトに仕立て上げてくれました。それは、物理的な境界をはるかに越えて広がっています。

かなわぬ願いと知りながらも、わたしはあの忙しい冬の間ずっと、だれかほかの人の役に立てたらと思っていました。その当時、わたしはストレスの多い職場で常勤の仕事をし、同時に、5歳から25歳までの、活発で手のかかる5人の子供の世話を気の休まらない毎日を送っていました。おまけにそのうちの二人は、1週間違いで結婚する予定になっていたのです。家事、仕事、教会と地域社会での責任のために、自分の能力の限りを尽くし、毎日くたくたになるまで働いていたときでした。しかしながら心の奥底でいつもわたしに呼びかける声があり、だれかを何らかの方法で助けたいという思いがありました。

毎日、朝が来て、前日達成した事柄のリストをチェックし、その日わたしを待ち受けている数々の問題に立ち向かうための方策を考える度に、「与えられた力……以上に急いだり、それ以上に働いたりすることのないようにしなさい」（教義と聖約10：4参照）という主の勧告を思い出し、心の中でつぶやきました。「たぶん明日になれば時間ができて、だれかに夕食をごちそうしたり、病気の友人に花を持って行ったりできるかもしれないわ。」

わたしにとって奉仕とは、形の見える贈り物という印象がありました。それは、クリスマスに作る自家製のキャンデーやドーナツであり、新しく引っ越して来た隣人のために焼くほかほかのパンであり、恵まれない家族あてに送る、着なくなった洋服だったのです。でも、寒い冬の一日、エスターのベッドのそばに座りながら、奉仕というのはわたしの考えていたものとは違うということを学びました。

「エスター、わたしの手をしっかりと握ってください」と医者励ました。「ほら、エスター、頑張て。」

「握ろうとしているんだけど」とエスターは答えようとしましたが、その言葉は途切れてしまい、その声も次第に小さくなっていきました。医者は首を横に振り、動きのなくなったエスターの手を戻しました。

「エスター、お医者さんたちが今からあなたを別の部屋に移すんですって。」医者たちが救急処置室から彼女のベッドを移すとき、わたしはそう説明しました。「きつとだいじょうぶよ。」エスターのおびえた目はわたしを探し出すと安心し、それから静かに閉じました。

エスターのことでわたしは恐れを感じていました。にもかかわらず、わたしの心の中に不思議な平安があったのは驚きでした。疲れ切った、過密スケジュールの生活の中で、一度だけ、自分があるべき場所にいることが分

かったからでしょう。土曜日になすべきこまごまとした仕事のリストも気になりませんでした。家族のことも気になりませんでした。わたしがエスターと一緒にということ家族は知っていましたし、あの狭くがらんとした個室の中であって、家族の祈りがわたしとともにありました。

朝が終わり、時間は次第に午後へと移っていきました。わたしは別の州に住むエスターの家族に電話をして、現状を伝えました。わたしは病院とエスター、そしてこの緊急事態を乗り切ろうとしているエスターの家族の間で、連絡係として働きました。そのような中でわたしはエスターに語りかけました。

わたしはエスターに寄り添うように座りながら、雲が集まって雪が降り始めた窓外の景色をじっと見ていました。そのとき頭の中を35年前の経験が横切りました。わたしの祖母が最後の発作に襲われたときのことです。家族の皆は、祖母のか弱い体に巣食う物言わぬ訪問者に恐怖感を抱きましたが、母だけはこう言いました。「おばあちゃんの手を握って、さすってあげなさい。話しかけてあげなさい。」

「おばあちゃんは、あなたの声が聞こえてるはずよ。表情には出せなくてもね。」母は言いました。「あなたの声を聞いて、愛を感じる必要があるの。だから、話しかけて、手を握って、おばあちゃんを愛してるって伝えるのよ。」

長い間、思い出すことのなかった母のこの言葉が、再びよみがえってきました。わたしはエスターに話しかけ、動かなくなった両手をさすり、小さな病室をわたしのささやくような祈りで満たしました。

それからすぐ、病室にエスターの家族が詰めかけました。わたしは彼らに場所を譲り、家族はエスターのベッドの周りに集まりました。家族の人々が手を伸ばし、エスターの動かない手に優しく触れ、髪をなで、エスターに話しかけるとき、朝からずっとわたしを引き止めて放さなかったあの緊急の必要性は消えてなくなりました。

「深い昏睡状態に入れられました」と看護婦はエスターの愛する家族に説明しました。「少し前までは言葉を交わそうとしていらっしゃいましたが、もう意識はなく、何もお分かりにならない状態です。」

わたしはドアの所に立ち、これが最後と思いつつエスターの動かなくなった両手に目をやりました。その手は前よりもゆったりして、よく見ると、開いたままでほかの人々の方に向かって伸びているようでした。そのとき、わたしの心はエスターのこの最後の贈り物に対する感謝の念でいっぱいになり、目から涙がとめどなく流れ落ちたのでした。□



「モーセと燃えるしば」ドメニコ・フェーティ画

「ときに主の使は、しばの中の炎のうちに彼に現れた。……〔そして〕神は……彼を呼んで……言われた、
「……足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである。」」(出エジプト3：2-5)

ウィーン美術史美術館の厚意により掲載



「わたしは
ホームティーチャーと訪問教師が
二つのことを経験するよう
希望しています。

第1は、

彼らの偉大な召しに伴う
責任を果たすという
チャレンジであり、

第2は、

会員に働きかけること、
特に活発でない会員に
働きかけることによって
得られる

喜びあふれる成果です。」

—ゴードン・B・ヒンクレー

大管長

(本誌「より良いホームティー
チャー、訪問教師となるには」

34ページ参照)



ヒンクレー大管長，オハイオ州と ニューヨーク・シティーの会員たちを訪れる



ゴードン・B・ヒンクレー大管長の話聞くために
ニューヨーク・シティーのマジソンスクウェアガーデンを埋めた2万人を超える末日聖徒と訪問者。

写真/ジョン・モー

チャーチ・ニュース

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は4月、ソルトレーク・シティーで開催された全米黒人地位向上協会 (NAACP) の指導者集会において演説を行った。その後、オハイオ州コロンバスおよびニューヨーク・シティーのマディソンスクウェアガーデンを訪れ、会員たちに向けて語った。また、末日聖徒医療制度デゼレト財団から功労賞を贈られた。5月の第1日曜日にはユタ州オグデンへ赴いて会員たちに教を説いた。

全米黒人地位向上協会 (NAACP) の指導者集会

4月24日、アメリカ合衆国西部、ハワイ、日本、韓国から約250人の指導者ならびに関係者が出席して全米黒人地位向上協会 (NAACP) の指導者集会がソルトレーク・シティーで開催された。この集会で壇上に立ったヒンクレー大管長はこのように述べた。「わたしはこれまでの生涯において、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ポリネシアの人々を訪れて、社会的に高い地位に就いている人々からそうでない人々まで、善良な人々から善良でない人々までと、ありとあらゆる人種の人々

と幅広い交際をしてきました。わたしにとっては全世界が隣り人の住んでいる地域です。どのような状況に置かれている人であろうと、世界中の人々はわたしの友人であり、隣人です。わたしは、救い主が言われた隣り人とはあらゆる人を指していると考えています。主はこのように言われました。『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」(マタイ22:37-39)

ヒンクレー大管長は社会に影響を及ぼしている多くの害悪について述べてから、このように語った。「この国において黒人社会は大きな力を発揮してきました。黒人社会は我が国の文化に対して、人々を強めるために多大な貢献を果たしてきました。しかしながら、あらゆる人種の人々の間で、あまりにも多くの人々が家族の中で発揮すべき指導力をないがしろにしました。それは善良で献身的な父親とその傍らに立つ有能で愛にあふれる母親が発揮する指導力です。彼らには、多くの



言葉ではなく模範によって子供たちを訓練し、優しくしつけ、祈りの気持ちで子供たちを助ける責任があります。天におられる神が意図していらっしゃる家族は社会の基本となる単位です。神は、ひとり親で、多くの場合に貧しい状態に置かれている母親のもとに子供たちが生まれ、育てられるような状態を家族に求めておられるわけではありません。神が定められた家族は、それぞれの家庭に父親が大黒柱として立つ家族です。」

ヒンクレー大管長はまた、家族の祈りの必要性について語った。「妻と子供たちとともにひざまずいている父親は、家族に対して驚くべきことを成し遂げます。……偉大な力を持つ御方の前にひざまずくという行為はわたしたちがその御方の助けを必要としていることを自覚することです。家族がお互いの前で、生きていることについて、健康と強さを与えられていること、また家族を与えられていることについて主に感謝することによって、一人一人にすばらしい影響を与えることができます。貧しい人々、助けを必要としている人々、不幸な人々を全能者の前で思い起こすことによって、子供たちにかげがえのない影響を与えることができます。それは子供たちの心に、利己心を捨てることと、人々に関心を持つことを教え、苦しんでいる人々を助けて祝福をもたらそうとする気持ちを植え付けるのです。」

ヒンクレー大管長が話を終えると、会衆は立ち上がって拍手を送った。また、全米黒人地位向上協会から功労賞を授与されたときにも再び大きな拍手が起こった。

オハイオ州コロンバス

4月25日土曜日、オハイオ州コロンバスに集まった約7,000人の会員たちを前にしてヒンクレー大管長はこのように語った。「愛する兄弟姉妹の皆さん、主はわたしたちに非常に多くのことを期待しておられます。主は教会の初期の時代から、聖徒に多くの期待を寄せてこられました。わたしは今日オハイオを訪れて、ここからさほど遠くない所にあるカートランドの時代について、また教会の初期の時代について、さらには当時の人々に求められた様々な事



マジソンスクウェアガーデンの電光掲示板に表示された教会の大会案内。
写真/カー・リヨン・ブーン

柄について考えていました。おもに経済的な事柄によるものでしたが、カートランドにおいて人々はふるいにかけられました。それは聖徒たちに大きな影響を与えました。忠実だった人々、まことを尽くした人々、忠誠を尽くした人々は預言者ジョセフ・スミスのもとにとどまりました。そうでなかった人々は次第に離れていきました。聖徒たちがふるいにかけられるという工程は初期の時代だけで終わったわけではありません。それは今後も続けられることでしょう。この民に寄せられている大きな期待は今後とも薄れることはないでしょう。」

家族関係の在り方に話の多くの時間を費やしたヒンクレー大管長はその中でこのように語った。「教会員の家庭にさえ、不親切、思いやりのない言葉、しんらつな思い、憎しみがはびこっています。わたしたちはこれらについて絶えず警告してきました。わたしたちは今こそ生活態度を改め、夫婦として、

父親として、親として、子供としての責任を正しく果たすよう悔い改めなければなりません。家族は神によって造られたものです。それは社会の基本となる単位です。ほかのすべてのものは家族の上に築かれています。家族が崩壊すれば、国家も崩壊します。わたしはこのことにいささかの疑問も抱いていません。教会は皆さんが家族関係の改善に果たす役割について大きな期待を寄せています。」

ヒンクレー大管長はオハイオ州コロンバスに新しく小規模の神殿が建設されることを発表して説教を終えた。

ニューヨーク・シティー

4月26日日曜日、ニューヨーク・シティーのマディソンスクウェアガーデンに集まった約2万人の出席者を前にしたヒンクレー大管長は、会員たちが教会から「大きな期待」を寄せられていることを改めて確認した。その一つが、信仰と祈りによって強い家族を築くことである。

大管長はまた、現代の啓示についても強調している。「一般的に言えば、キリスト教徒、またユダヤ教とイスラム教を奉じている兄弟姉妹は、いにしへの預言者たちが聖なる御霊に感じて語った啓示の言葉については敬意を払っています」と大管長は語った。「これらの預言者が語った時代の社会はそれほど複雑ではありませんでした。社会の仕組みは比較的単純でした。当時の社会に啓示が必要だったとすれば、わたしたちが現在生きているような高度に複雑化し、困難な時代にはもっと啓示が必要なのではないでしょうか。もし



ニューヨークにおいて実業家、報道関係者、外交官と歓談するヒンクレー大管長夫妻と教会の指導者。
写真/ジョン・モー



神がいにしえのアブラハムに語られたのであれば、この時代に神は預言者たちに語られないということがあるでしょうか。わたしたちは現代に啓示が与えられることを信じています。わたしは皆さんの前に立って、謙遜に、しかしながら確信をもって証します。わたしたちは今日、この時代に教会を導くために啓示を与えられています。神はわたしたちを見捨てておられるわけではありません。わたしたちが神の戒めに従って生活するならば、神は今後も決してお見捨てにはならないのです。」

ヒンクレイ大管長の説教は11か国語に翻訳されるとともに、ラジオ放送網を通じて生放送された。大管長は大会に先立って報道機関と実業界の指導者ならびに朝鮮民主主義人民共和国のリー・ヒョン・ Chol 大使をはじめとする外交官と会見した。リー大使は飢饉にあえぐ同国に対して教会が実施した人道的救援活動に感謝の意を表明した。

大会に出席したのはニューヨーク都市圏に住む約2万人の教会員、それに遠くはマサチューセッツ州、ノースカロライナ州から訪れた会員たちである。「これほど多くの教会員が一同に会する光景は実に感動的です」とコネチカット州ハートフォードから出席したスコット・レフォルは述べている。「御霊がまさにあふればかりに注がれていました。」

カリブ海地域の出身で現在ブルックリンに住み、4年前にバプテスマを受けたアンセア・ピアーはこう語った。「ここに預言者をお迎えすることには大きな意味があります。預言者の霊を直接肌で感じることができました。わたしたちが学んでいる信条と原則、大管長がわたしたちに伝えてくださるメッセージが真実であることを確信できました。それらは神から与えられたものです。大管長は神の預言者です。」

ヒンクレイ大管長、 功労賞を授与される

ヒンクレイ大管長は4月に、功労賞を授与されるという栄誉を受けた。末日聖徒医療制度デゼレト財団では人類の福祉に貢献のあった個人に対して毎年、功労賞 (the Legacy of Life Award) を授与している。本年度の受賞者に選ばれたヒンクレイ大管長は4月15日、ソルトレーク・シティーのホテルに集まった約1,000人の招待客が見守る中、同章を授与された。

ユタ州オグデン

5月3日の日曜日、ヒンクレイ大管長はユタ州オグデンを訪れ、集まった約1万2,000人の会員たちを前に次のように述べた。「主の御業においてわたしたちは偉大なときを迎えています。わたしは眼前に繰り広げられる有様にただ驚

くばかりです。訪れる先々で敬意のこもった歓迎を受け、丁寧なもてなしを受けています。報道関係者から訪問を受け、記者会見を開いています。人々は教会について知りたいと望んでいます。彼らはわたしたちがなぜこのような発展を遂げているのかを知りたいと思っていますのです。わたしたちは現在、人々が関心を向けるほど大きくなり、強くなりました。兄弟姉妹の皆さん、これはわたしたちが期待にこたえる生活を送らなければならないという大きな責任を負っていることを意味しています。わたしたちは、預言が成就する時代に生きています。現在は古代の預言者たちが語ったその日です。皆さんは預言者たちが語ったその民です。主の至高の権威と思いやりと御心によって、わたしたちは驚くべき素晴らしい祝福を得ているこの時代に遣わされました。わたしたちはこの祝福にどれほど感謝しなければならないことでしょうか。神はわたしたちが強くなり、まことを尽くす民となれるよう助けてください。」□

末日聖徒イエス・キリスト教会がロシアで正式に承認

末日聖徒イエス・キリスト教会はこの度、モスクワにあるロシア連邦政府法務省から正式に承認された。5月14日木曜日に登録証明書が交付されたことで、教会はロシア国内で引き続き人道的援助および伝道活動を推し進めることができ、教会員のために集会所を提供することができる。

カトリック教会をはじめとするその他の宗教団体も同様に承認を受けた。

ロシアにおける教会活動の任を受けている十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老は次のように述べた。「教会の承認申請に対して、法務

省ならびに他のロシア関係当局の方々が迅速に対応されましたことに感謝しています。ロシアには100年以上前から教会員が住んでいますが、教会は1991年に元ソビエト連邦により正式に承認されました。」

今回の新たな承認によって、1997年にボリス・エリツィン大統領により施行された法律下で、教会がどのような立場にあるかが明確にされた。この法律はすべての宗教団体の再登録を義務づけている。そしてすでにロシアに存在している教会への影響に関する問題点が挙げられた。その時点で教会の指

導者は、ロシアにおける教会の長期にわたる将来については楽観視していた。

ホランド長老は次のように説明した。「ロシアの末日聖徒は信仰箇条により、より良き市民となって、さらに強く、活気あふれる国家の建設に貢献することが義務づけられていると政府にはっきりと伝えました。」

他の国々と同様、ロシア政府とも、常にコミュニケーションを取れる体制を取り、一致して働けるようにしていくつもりです。」

教会は現在ロシアに7つの伝道部があり、数千人の教会員が住んでいる。□

ミズーリ州との新たな架け橋となった展覧会

「ミズーリ州でのモルモンの足跡をたどる記念展」の開催に当たり、七十人のヒュー・W・ピノック長老とミズーリ州メル・カーナハン知事によりテープカットが行われた。展覧会は教会員とミズーリ州の市民、また指導者とが友情と理解を深める良い機会となった。開会式典は4月24日、ジェファーソン・シティーにある州議会議事堂の建物で行われた。

1830年代に教会が受けた迫害、特にそれが頂点に達したとも言える1838年にリルバーン・W・ボッグズ知事によって発令された、すべてのモルモンは州から立ち退かなければ殺されるとした撲滅令とは対照的に、カーナハン知事から温かい歓迎を受けた。

カーナハン知事は開会式典に出席した1,200人の聴衆を前に、教会員のミズーリ州への来訪を歓迎した。「ピノック長老、わたしたちは過去の歴史を変えることはできません。しかし、現在のわたしたちにできることを行っていくことはできます。昨年の5月、セントルイスに建てられた美しい神殿のオープンハウスに来られたピノック長老と教会の皆さんを歓迎でき、大変うれしく思いました。今日は、皆さんをミズーリ州議会議事堂の席にお迎えしています。ピノック長老とご友人の皆さん、そしてすべての教会員の方々に、心からの歓迎の意を表したいと思います。」

ピノック長老は、州内で起こった教会歴史の多くの出来事を挙げながら、1831年以降の教会とミズーリ州とのかわりについて話した。1838年に出された撲滅令は、1976年、当時のクリストファー・S・ボンド知事によって公式に撤廃されたことにも触れた。ピノック長老は続けて次のように語った。「しかし、少なくともその100年以上前に、この地の人々はその撲滅令を心の中で撤廃していました。ミズーリ州はこれまでずっと、教会員にとって温かく、すばらしい土地でした。」



ミズーリ州議会議事堂における開会式典に出席したミズーリ州のメル・カーナハン知事、州監査役のマーガレット・B・ケリー氏、ヒュー・W・ピノック長老、ケネス・ジョンソン長老、リン・G・ロビンズ長老。
写真/ジム・シャーマン

ピノック長老は、七十人で北アメリカ中央地域会長会第一副会長のケネス・ジョンソン長老および第二副会長のリン・G・ロビンズ長老とともに、カーナハン知事とジーン夫人に、5巻にも及ぶ彼らの家族歴史を贈呈した。

カンザスシティ地域の40以上のワード/支部の会員で構成する100人のハート・オブ・アメリカ・モルモン聖歌隊が式典に音楽を添え、ブラスバンドの伴奏に合わせて賛美歌やアメリカ愛唱歌の数々を披露した。

展示の絵の制作を依頼された画家のリズ・レモン・スウィンドル氏とグレン・S・ホブキンソン氏も出席した。

2年前、当時ミズーリ・カンザスシティステーク、クリントン支部の支部長であったマーティン・クーパー兄弟は、州議会議事堂の観光ガイドが、そうとは知らずに教会について誤った情報を人々に伝えているのを耳にした。ガイドの一人から、ツアーの内容は10年間変わっていないことを聞いたクーパー兄弟は、何とかしなければと考えた。それから2年間にわたる彼の尽力は、州中の多くの会員の賛同を得て今回の初の展覧会として結実した。

展示の内容は以下の8枚のパネルから成り、絵と文章によってミズーリ州における教会歴史を説明し、地図でモルモンの移住の足跡を示している。

●「モルモンのミズーリ州への移住」州における教会の初期の時代について。

●「未解決の争いによって、友と敵が明らかになる」違いや不理解が教会員と一部のミズーリ住民との間に争いを生んだこと、またほかのミズーリの人々は同情的であったことについて。

●「我らの郡」1836年につくられたコールドウェル郡について。ここにおいて会員たちは約2年間平和に暮らした。

●「大きな試練の時」撲滅令とリバティの監獄での出来事について。

●「出ノーブー」会員たちによるイリノイ州ノーブーの町の建設と預言者ジョセフ・スミスと兄ハイラムの殉教について。

●「移住して来た会員たちの集合」会員たちの西部への移住について。

●「モルモンの家族と堅持してきた価値観」教会員が今日ミズーリで行っている事柄について。現在州内には4万4,000人の会員が居住し、158のワード/支部がある。また、ミズーリ州セントルイス神殿がある。

●「キリストへの信仰によって支えられた人々」回復された福音とイエス・キリストの教えに固くつく民である末日聖徒について。□

永遠に益をもたらす教義の影響

4月30日、七十人のマーリン・K・ジェンセン長老は、福音の教義は人間の行動を強力に形作るものである、と宣言した。ジェンセン長老とキャサリン夫人の二人がユタ州プロボのブリガム・ヤング大学において開かれた「1998年女性の大会」の一部である夜のファイヤサイドで話をした。

1年に1回開かれるこの女性の大会は、今回102講座が設けられ、1万5,000人以上が出席した。今年のテーマはモロナイ書9章25節の「キリストに支えられて」であり、ジェンセン長老夫妻は、霊的な錨(いかり)に焦点を絞って話した。

ジェンセン長老は、ポテパルの妻の誘惑をはねのけたヨセフの物語（創世39参照）について語った。「神がわたしたちの父であり、わたしたちが神の子であり、そして神がわたしたちのために計画をお立てになったという教義を、ヨセフが教えられていたことに疑いを差し挟む余地があるでしょうか。教義がわたしたちの行動に与える影響は偉大で、永遠に益をもたらすものです。」ジェンセン長老は以下の提案をした。

●知識の代価を払う。「わたしたちは皆個人的に、現代に生きる自分に照らし合わせて福音の教義を発見し、考え、貯えていく必要があります。そうするためには、少し早く起きるか、少し夜更かしするか、もしくは毎日続けて日中のわずかな時間をひねり出して勉強する時間を取る必要があるかもしれません。」

●教義を実践する。「福音の教義について学び、自分のものとし始めたならば、……やがて自分を含め周りの人が自分の行動の変化に気づくようになるでしょう。福音の教義を学ぶと決意して努力するならば、教義の最良の源である聖文で思いを満たすことができるという益も得られます。」

●教義を教える。「わたしたちが福音の教義をどれほどよく理解しているかを測るには、恐らくどれほど明確に、かつ簡潔に福音を教えられるかを見る

のがいちばん良い方法です。そして、わたしたちはぜひ教えなければならぬのです。」

ジェンセン長老は家庭で福音を教えることによって家族に愛情を表現するように会員たちに勧告した。「わたしたちが教義を教えるとき、力と御霊(みたま)が伴って、教える事柄が相手の心に深く浸透するでしょう。またその人は時宜にかなったときや大切なときに、教えられたことを思い起こすのです。」

ジェンセン姉妹は話の中で、家庭の中で築かれた伝統は霊的な錨となる、と語った。「わたしたちは望んでいようといまいと、伝統を作り上げています。……伝統は、大きなことをもたらす小さなことの一つとなり得るのです。」

ジェンセン姉妹は、以下の習慣がよい伝統を築き上げていくと述べている。

●家族で夕食を取る。「家族で夕食を取るようにと書かれている聖句は知りませんが、家族で夕食を取る家庭に育ち、家族で夕食を取る努力をしている家庭の親としての経験から、それが家族にとって良いことであると知っています。同じ家に住みながら、まったく交わることのない生活を送るというのは悲しいことだと思います。結婚生活を立て直すためにカウンセリングを受けていた夫婦を知っていますが、すてきなダイニングテーブルを買って、それを使用するようにアドバイスを受けたそうです。」

●一緒に旅行する。「車で旅行することが、家族を一致させてきたと思うことがよくあります。……目的地に着くことも楽しみの一部ですが、……車で旅行すると、とにかく一緒にいる状況となります。この忙しい社会では、なかなかできないことです。」

●ともに読書をする。「だれかに本を読んであげると、読む者も聞く者も共通のお話を分かち合うことができ、またお互いへの親近感を得ることができます。」

●ともに聖文を勉強し、ともに祈る。

「家族の祈りによって一日を終えることは、理想的なことだと思います。そして聖文を読むときに感じる心地よさを、皆さんは御存じだと思います。」

●家庭の夕べを開く。「ある月曜日一日だけを考えると、その日の家庭の夕べから何か良い変化をもたらされるのだろうかと考えてしまいます。しかし10分のレッスンは何年にもわたって蓄積されれば、その成果はかなり大きなものとなっているのです。」

●家族のルールを決める。「家族のための錨を作ることは可能です。そんなにお金もかかりませんし、特別な創造力を必要とするものでもありません。しかし時間はかかります。そして錨を作っていくという強い望みがぜひ必要とされます。」

【チャーチニュース】(Church News)の厚意により、1998年5月16日付けの記事より掲載。



1万5,000人以上の参加者が、「1998年女性の大会」のためにブリガムヤング大学のキャンパスに集った。
写真/スチュアート・ジョンソン

キリストを通してあらゆる試練を克服する

去る5月1日、ブリガム・ヤング大
学で行われた「女性の大会」の
最後の部会で、バージニア・U・ジェ
ンセン姉妹は、忠実な女性はキリスト
によって「何事でもすることができる」
と学んできた(ピリピ4:13)、と述べた。

中央扶助協会の第一副会長であるジ
ェンセン姉妹は、自宅の裏庭にある広
いロックガーデンに関連させ、次のよ
うに表現した。「姉妹の皆さん、わた
したちは様々な大きさの岩で埋め尽く
された世界に住んでいます。現世は神の
計画により、信仰を試す場、また永遠
の進歩の中のきわめて重要な段階と
して、そのように創造されたのです。現
世での最も大きな課題の一つは、キリ
ストの恵みと慈悲により、それぞれの
岩を登ることができる、つまり遭遇す
るなどの試練も克服できると知ること
です。」

試練の中には自ら選んだものもあり、
例として、母親としての試練、そして
独身の人の職業に関する問題などを挙
げた。

ジェンセン姉妹はさらに続けた。「現
世ではまた、時として自らの選択によ

らぬ岩を登る機会に遭遇するという現
実も存在します。そのような岩に登れ
ば、手やひざは擦りむけ、血が出てし
まいます。信仰が篤く、什分の一を納
め、神殿に参入し、聖文を読み、ホー
ムメイキングに協力し、家庭訪問を
100%達成している末日聖徒の女性で
あっても、そのような岩に登らなくて
はならない場合があります。」

またジェンセン姉妹は、そのような
試しとして、愛する者を失うことなど
が挙げられる、と説明した。

そして聴衆に、イエス・キリストの
教えやたとえを学ぶように勧めた。「イ
エス・キリストの教えやたとえは、洗
練された形で簡潔な指示を与えていま
す。それらは山登りをする道具と対比
することができます。……道が平坦な
ときと同様に、険しい岩だらけの道を
歩かなくてはならないときに、つまり
この現世での旅で経験する試しのとき
に、『新約聖書』からこれら道具一式を
取り出し、霊的なリュックサックに入
れて持ち歩くことができます。」

ジェンセン姉妹は、これらの道具に
ついて幾つか説明した。

●神の平安を求める。「神の平安はこ
の世の平安に勝ります。それは突然変
化する事柄に基づいていないからです。」

●主を信頼する。「御自分の姿に似せ
てわたしたちを形作ることを望まれて
いる神を覚え信頼することで、人生で
遭遇する障害を乗り越える勇気と昇栄
の約束を得ることができます。」

●敵を赦す。「赦しは心を和らげ、わ
たしたちを過去から開放して現在に目
を注がせる、清めの行いです。現在こ
そ、行動を起こせる唯一の時なのです」

●感謝をする。「自分の人生の中の美
しいものを探し求め、見だし、真心
から感謝をささげることによって、霊
が鼓舞され、心機一転することができます。」

●わたしの子羊を養う。「もし忘却の
幕を取り去ることができ、前世におい
て自分が何者であったかをかすかにで
も知ることができたとすれば、以前に
も増して、キリストが知っておられる
わたしたち自身を知ることができるで
しょう。」

『チャーチニュース』(Church News)紙の厚意
により、1998年5月16日付の記事より掲載。

ヘイルズ長老、規則に従うことによって 災いを避けるよう独身会員に勧告する

サラ・ジェーン・ウィーバー



教会教育部主催のファイヤサイドの開会に先
立って末日聖徒従軍聖職者スティーブン・メ
リルを歓迎するロバート・D・ヘイルズ長老。
写真/ダン・ドレッサー

教会教育部主催のファイヤサイドに
出席したロバート・D・ヘイルズ
長老はこう語った。「飛行機のパイロ
ットが飛行中の事故を避けるためには一
定の規則に従わなければならないのと
同じように、教会員が人生において災
いを避けるために理解し、守らなければ
ならない律法と儀式と聖約があります。」

5月3日、アメリカ合衆国空軍士官学
校礼拝堂において、かつては空軍のパ
イロットであった十二使徒定員会会
員のヘイルズ長老は士官候補生を前に
してこのように語った。「聖霊から受ける
警告に注意を払わなかったり、意図的

に無視したりすると、わたしたちは航
路を外れた飛行機のように、目標地点
に到達するまでに墜落してしまうこと
でしょう。」

教会教育部が主催したファイヤサイ
ドの様子はアメリカ合衆国とカナダ各
地に集まった10万人以上の独身会員
に中継された。ファイヤサイドでは空
軍士官候補生聖歌隊によるコーラス
が披露された。教会教育部が教会所
有の建物以外の会場で行われたファイ
ヤサイドを中継放送するのはこれが初
めてである。

ヘイルズ長老は話の中で、「憲法が
規定する自由権すなわち言論の自由、

教の自由、集会の自由、企業の自由の擁護者」である空軍士官候補生をはじめとする擁護者に対して心からの賛辞を述べた。

ヘイルズ長老は、自由権は個人の持つ選択の権利を確立するものであると説明している。「皆さんや皆さんと同様の多くの人々が進んで人生の一時期を割いて世界の自由を守ってくださるために、より良い世界が築かれているのです。そしてわたしたちもより善い人となることができますのです。愛国心について皆さんが示している模範によって、皆さんやわたしの子供たちや孫たちは、引き続き自由を享受することでしょう。皆さんのすべての働きに感謝しています。」

1955年から1958年まで空軍において兵役を務めたヘイルズ長老は所属していた飛行中隊で、兵士の志気を高めるためのモットーを掲げていたことについて触れている。ヘイルズ長老は、自分の操縦する航空機の側面に「名誉の帰還」というモットーを掲げていた。「『名誉の帰還』というモットーを掲げることによって、わたしたちは任務をすべて完了するために最大の努力を払った後に初めて名誉ある帰還ができることを常に脳裏に刻みつけておくことができました」とヘイルズ長老は語った。「この『名誉の帰還』というモットーは永遠の進歩の計画におけるわたしたち一人一人に当てはめることができます。かつて天父とともに暮らし、死すべき世と呼ばれる地上での生活を始めたわたしたちは、天の家へ名誉をもって帰還することを固く決意しなければなりません。」

聖典の教えによれば、そのような名誉には主を信じる信仰を持つこと、主を信頼すること、じゅうぶん 十分の一と献金を納めること、主を愛すること、けんそん 謙遜と従順が含まれると、ヘイルズ長老は述べている。

そして、飛行機のパイロットのように、独身会員も一定の規則に従い、特定の道具の使い方を理解していなければならぬ、と述べた。

●「航空機の機器パネルにあるコンパスは、地軸の北を基にして自機との

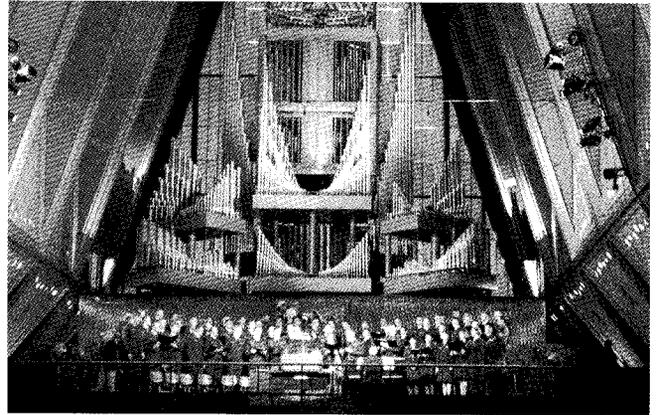
関係を示してくれます。聖霊はコンパスにたとえることができます。なぜならば両者はともに、わたしたちがいずれの方向に向かっているかを示して、たとえ嵐がどれほどひどくても気象状況に関係なく目的地までの道を明らかにしてくれるからです。

●燃料計は消費した燃料と残っている燃料がどれほどかを示してくれます。任務を果たすために必要な燃料が入っているかどうかを確認せずに空中に飛び立つパイロットはいません」とヘイルズ長老は説明した。「わたしたちは福音を通して与えられた使命を成し遂げるために必要な燃料を維持しなければなりません。その燃料は、毎日霊性を補給することを通して維持することができます。そのためには、祈りをささげ、聖文を研究し、キリストのような生活を送り、主の王国を建設するために献身し、神聖な聖約を守り、愛の気持ちで互いに仕え、教会の集会に出席し、従順でなければなりません。」

●パイロットは高度計から自機の高度を知って、衝突を避けるためにあらゆる障害物の上方を飛行することができます。わたしたちはイエス・キリストに従う者として、約束されているすべての偉大な祝福を受けるためにあらゆるものを超越して生活を営もうではありませんか。

●姿勢表示計は地平線と自機との関係を逐次、正確に示してくれます。わたしたちは自分の態度について常に注意を払っていなければなりません」とヘイルズ長老は語った。「わたしたちはあらゆることについて積極的であり、忠実であり、信頼に足るような行いをしているのでしょうか。消極的であってはなりません。周囲の人々を強め、そして高めてください。」

ヘイルズ長老は聴衆に向かって、救い主はわたしたちが墜落することを望



んでおられないと語った。「救い主はわたしたちが主と永遠に住む場所に通じる細くて狭い道を歩むよう望んでおられます。」

ヘイルズ長老は独身会員に対して、自分が気に入った事柄だけに対して従順であること、力を誇示するような行動、衝動的な行為、権威に対する不従順（命令に違反する、正規の飛行計画に従わない、正規の手順を無視すること）を避けるようにと述べた。「わたしたちが何者であるか——つまり天父の息子、娘であること、わたしたちはなぜここにいるのか——すなわち死すべき体を受け、経験を通して知恵を得て、終わりまで堪え忍ぶこと、そしてわたしたちはどこへ行こうとしているのか——つまり天父のみもとに帰ること、を忘れないようにしていれば、救い主が示された模範に従って生活することができます。」

教会員は人生において悲劇を味わうことのないように、軽率な判断を下さないよう注意しなければならないとヘイルズ長老は語った。「聖霊から放射される光は、細くて狭い道にとどまるよう導いています。わたしたちはその導きを受けることによって大きな慰めを得ます。御霊の導きがないまま放置されること以上に孤独を感じることはありません。日々の生活で御霊を受けるためには、従順であり、戒めを守り、わたしたちに与えられているすべてについてしばしば感謝の祈りをささげることが大切です。」□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年5月9日付けの記事より掲載。

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1998年9月

以下は、初等協会の指導者が『聖徒の道』1998年9月号に掲載の、「分かち合いの時間」とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、この号の「こどものページ」、12-13ページの「いのり」を参照する。

1. 子供たちにヤコブの手紙1:5を暗記させるために、5人の子供たちに聖句の各部分を示す物を持たせる。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、(大きな疑問符) / その人は、とがめもせずに(しからないことを示す絵——だれかに向けられた人差し指に、×印が付いている絵など) / 惜しみなくすべての人に与える神に(両手で何かを差し出す絵や、キリストの像の絵) / 願い求めるがよい。(祈っている人の絵) / そうすれば、与えられるであろう。(「知恵」と書かれた贈り物の絵)」これらの物を使って子供たちが聖句を言いやすいようにし、繰り返すごとに、ヒントを一つずつ減らしていく。

2. ダニエルの物語を話し、彼が祈りの大切さを理解していたことを強調する(ダニエル6章参照)。教会付属図書館や、『福音の視覚資料セット』の絵を使う。子供たちが誘惑を避けたり、正義を選んだりするうえで勇気が必要とする状況を示した絵を用意する。(例——転校生をからかう、お金を払わずにお菓子を取る、悪い言葉を使う、テストでカンニングをする、人のおもちゃを壊すなど) 何人かの子供たちに絵を選ばせ、現代のダニエルだったら、そのような状況にあってどうするかを話させる。

3. モーセが主を呼び求めたとき、大きな力と知恵を受けたことを説明する(モーセ1章参照)。彼は世界と神の創造の業を目にした。仲間探しゲームをして、モーセの見たものについての

ヒントを与える。次の言葉を黒板に書く。木、花、動物、鳥、水のある所。子供たちにそれぞれの仲間を挙げさせ、黒板に書く。時間の許すかぎり、多くの事柄について仲間探しをさせる。鏡を手を持って見せ、モーセが見た中で最も大切なのはわたしたち一人一人であることを話す。神が世界とそこにあるすべてのものを造られた理由がモーセ1:39に書かれているので、それを子供たちに読んで聞かせ、説明する。「天のお父様の愛」(『子供の歌集』16)を歌う。

4. 以下の物を用意し、大きな袋に入れておく。(1) 弓矢と「エノス」と書かれた紙、(2) 「父の言葉」と書かれた紙、(3) 大きな真っ赤な太陽の絵、(4) 黒か紺の紙に描かれた月と星の絵、(5) 「罪は赦された」と書かれた紙、(6) キリストの絵、(7) 「ニーファイ人」と書かれた紙、(8) 「レーマン人」と書かれた紙、(9) 金版の絵か模型、あるいは『モルモン書』。子供たちに「人はどんなときに長い時間お祈りするでしょう」と質問する。聖典に書かれている中で最も長い祈りの一つについて教えるので、9人の人に手伝ってほしいと話す。9人に袋の中の物一つずつ取らせ、横に並んで立つように言う。聖典の物語を読むのに合わせて、9人がそれに合った絵や物を見せてくれることを説明する。9人の子供たちに、自分の持つ物に関係する部分が読まれたら、一歩前に行くように言う。エノス1:1-16を読む。まとめとして、9人の子供たちの持つ物を使って、エノスのキリストへの信仰によって彼の罪は赦されたこと、彼はニーファイ人とレーマン人のために祈ったこと、また記録が残されたことを示す。

5. 成人会員の一人にリムハイの民の物語(モーサヤ21-22章参照)を話してくれるように、もう一人にアルマの民の物語(モーサヤ24章参照)を話

してくれるように依頼しておく。初等協会を二つのグループに分け、二人にそれぞれどちらかのグループに物語を話してもらおう。人々が熱心に祈ったにもかかわらず、その祈りがこたえられるまでには時間がかかったことを強調してもらおう。子供たちの中から代表を選んで(それぞれのグループから3人くらいずつ選ぶ)前に座らせる。黒板に「リムハイの民」、「アルマの民」と書く。あらかじめ準備したヒントを順不同に出す。リムハイのグループ——(1) レーマン人と戦って3回負けた(2) 神に呼び求めた(3) 主はレーマン人の心を和らげ、彼らの重荷を軽くされた(4) アンモンが来て、福音を教えた(5) ギデオンが、見張りの兵にぶどう酒を納めることを王に勧めた(6) 人々は夜、秘密の道を通って逃げ出した。アルマのグループ——(1) 人々は神に呼び求めた(2) 祈る人はだれでも命をねらわれた(3) 人々は心の中で祈った(4) 主は彼らの重荷を軽くしてくださった(5) ノア王の邪悪な祭司が人々を治める(6) 主は人々に準備をするように警告し、見張りたちを深く眠らせられた。子供たちにヒントを読ませ、代表たちにそのヒントはどちらの物語に関するものかを答えさせる。ヒントを当てはまる方には。両方の物語に当てはまるものもあるので、その場合は二つの中間には。最後に、子供たちにこの物語をどのように自分たちの生活に応用できるかを尋ねる。

6. 関連するそのほかの資料としてそれぞれ、「こどものページ」の以下の記事を参照する。「主の風」『聖徒の道』1998年3月号、16; 「よく思いはかり、いのることにより、正しいことをえらぶ」『聖徒の道』1997年6月号、8-9; 「何度もいのりなさい」『聖徒の道』1997年3月号、2-3; 「ほかの人のために祈る」『聖徒の道』1996年8月号、14-15。□

新伝道部長紹介



名古屋伝道部 エバンズ部長ご夫妻

デビッド・F・エバンズ伝道部長(46歳)。召しを受けたときは、ソルトレークエンサインステーキ、エンサイン第6ワードに所属していた。これまで副ステーキ会長、ステーキ若い男性会長、ステーキ伝道部長、監督、副監督、スカウト隊長などを務めてきた。ユタ大学で学士号、プリガム・ヤ

ング大学で法学博士号をそれぞれ取得し、現在は弁護士として働いている。

ユタ州ソルトレーク・シティーでデビッド・C・エバンズ、ペバリー・ジョイ・フリーウィン・エバンズ夫妻の間に生まれた。メアリー・ディー・シェパード姉妹と結婚し、8人の子供に恵まれている。□

●ローカル・ニュース

動き始めた非常時対応無線システム(E.R.R.S)

東京ステーク所沢ワード所属の須田昭仁兄弟は、去る7月2日午後2時ごろ、自宅付近の東京都清瀬市内を車で走行中にアマチュア無線の通信を傍受した。30キロ以上離れた東京都八王子市近郊、小仏峠付近の山頂から下を見ていた方が火災を発見し、携帯無線で呼びかけていたのだ。あまりに通信が遠かったのが最初は聞いていただけだったが、だれも応答する人がなかったため清瀬市の消防署へその足で通報した。清瀬署から神奈川県方面へ呼びかけたところ津久井郡で火災が発

生していることが分かり、現場近くの東京都町田消防署から直ちに応援の消防車が出動。後日、須田兄弟のもとには清瀬消防署長より感謝状が届けられた。

須田兄弟は、教会福祉中央委員会の指導で運営されている「非常時対応無線システム」(Emergency Response Radio System. 略称

須田 昭仁 殿
平成十年七月九日
東京消防庁
清瀬消防署長 安 青 光 三
謹白

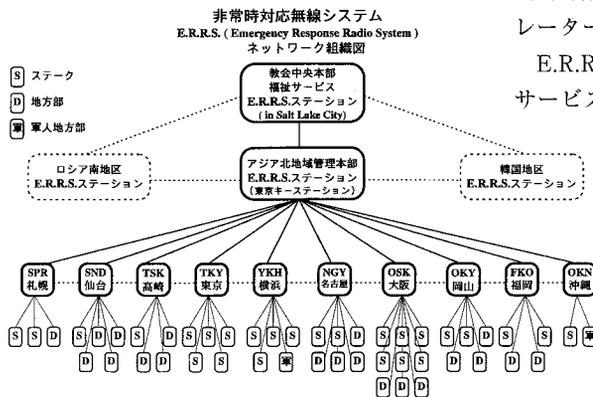
謹啓 猛暑の候 貴台にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より深いご理解と御心を寄せていただき、誠にありがとうございます。発生した火災に際しましては、アマチュア無線により火災の情報を早期にキャッチされることと、ただちに清瀬消防署へ情報と提供されましたことは、東京消防庁と津久井郡消防本部における災害発生時の応援体制に寄与するところ極めて多大であります。又、このようなご協力は防災業務にたずさわる者にとつて誠に力強く、衷心より厚くお礼申し上げます。なお、消防署におきましても日夜みなさんの生命財産をお守りするための署員一丸となり防災に万全をつくしてまいります。今後とも火災予防はもとろん、その他の消防業務につきましても深いご理解とご協力を賜り住みよい街づくりにご尽力くださいますようお願い申し上げます。

須田兄弟が受け取った感謝状

E.R.R.S.)東京キーステーション・オペレーターの一に召されている。

E.R.R.S.とは、自然災害などで電話サービスが役に立たない非常の際に奉仕する無線通信ネットワークのこと。まず教会中央本部(ソルトレーク・シティー)の福祉サービスE.R.R.S.ステーションと日本東京管理本部のE.R.R.S.ステーション(東京キーステーション)を短波無線で結び、東京キーステ

ーションを通じて日本全国までネットワークを構築するのである。現在、関東地方在住の数名の方がE.R.R.S.オペレーターとして召されており、将来的にはアマチュア無線の免許を持つ地域在住の会員たちが各ステーク/地方部ごとに召される方向で準備が進められている。阪神大震災などを教訓として、須田兄弟の場合のような、正確・迅速な情報伝達が求められる緊急時にE.R.R.S.が十分に機能できるよう、実験を重ねている。□



焼け焦げた膳本

先祖からゆだねられた家族歴史の業

富山地方部 地方部長
柴田 昇

1982年のことです。祖母の一周忌で帰省してみると、父の工場が火災で全焼していました。帰り着いたとき火はすでに消えていましたが、辺りには熱が残り、鉄骨は曲がり、火の恐ろしさを見せつけるかのようにわたしを迎えました。

出火時に持ち出せたものはほとんどなく、ただ、焼け焦げた1冊のアルバムがよけてありました。そのときはアルバムに先祖のメッセージがあるとは思ってもみませんでした。家のことを思うと、ほかのことを考える余裕などなかったのです。兄とわたしは父を励ますことで自分自身をも励ましていました。

そんな中で、かねてより帰省の折に出してこようと考えていた1通の除籍膳本を取りに、翌日、町役場へ出かけました。ところが尋ねると、その膳本の保管期間が過ぎているので出せない、との返事ががっかりしました。

当時わたしはまだ教会員になりたてでした。7か月後に神殿で、この世から永遠にわたって夫婦・家族としての「結び固め」を受けるのを心待ちにしていたのです。そしてそれに先立ち、先祖の救いのために調べられる限りの故人の名前を神殿に提出しようとしていました。必要な資料を取り寄せ、まずは父、母それぞれの4代家族歴史が目標でしたが、それにはその残り1通分の除籍膳本が必要だったのです。しかし「出せない」との結果に、家族歴史探求への思いまでが止まってしまったかのようなのでした。

月日は過ぎ、改宗1年目を迎えたわたしたち家族は、東京神殿で結び固めの儀式を受けました。神殿には真理に添った^{まこと}聖さが満ちていました。その後、兄弟姉妹の温かい見守りの中で4年間



火事の中から救い出された膳本と先祖の写真

お世話になった茨城県水戸市を離れ、富山に戻って父と兄とともに働くこととなりました。

それからさらに6年が過ぎたある日、父の家で、小さな空き箱に残されている、一部が焼け焦げた古い写真を見つけました。無性にアルバムに収めたくなり整理し始めたとき、箱の中に写真と混じって1通の焦げた膳本が入っているのに気づきました。薄汚れて用もなさないと思いながらも、捨てるに忍びなく近くのタンスの上に置いてそのままになってしまいました。

それから1年が過ぎようとするころです。10年前から断ち切ることができなかった「あの膳本があれば」との未練を、ようやくあきらめて、ほかの方法で調べようと祈り願っているところでした。あるとき何げなく例のタンスの上の膳本を手にし、初めてじっくり読み始めたのです。「信じられない。」その思いがしばらく頭と心からこだましてやみませんでした。

それは以前より求めていた膳本そのものだったからです。今となってはだれが取ったのかも分かりませんが、わたしの改宗する6年も前に出してくれていたのです。感激の出会いでした。

焼け跡から拾われて11年、何回も接していたのに……わたしのもとにゆだねられていたにもかかわらず、ほんとうに必要と思って主に心から頼り求めるまで与えてはくださらなかったのです。この経験は苦い教訓として心に刻まれました。先祖たちは、救い主の計らいにだれも不安はなかったでしょうが、わたしのような頼りない者に託して一体いつになったらと思っていたことでしょうか。心からわびる思いでした。これからも時間や空間を超えてすべての人類に救いがもたらされるように、主の業の良き助け手として働きたいと願っています。(しばた・のぼる)

主の業は一つ

息子の死を越えて学んだ救いの計画

東京ステーキ所沢ワード

石坂春美

次男の勇が95年7月に脳腫瘍を患いました。スキャンをすると脳の真ん中に大きな腫瘍がありました。ところが手術の後に「これは悪性腫瘍で、もっても5年ぐらいの命」と告げられました。手術でも完全に腫瘍を取り去ることはできず、その腫瘍がだんだん大きくなりつつあったのです。

慰めの声

勇の手術後2、3週が過ぎ、あるときわたしは病院へ向かっていました。歩きながらも心は心配で押しつぶされそうでした。……わたしは救いの計画を知っているので、かりに勇の命を取り上げられても仕方がないとは思っていました。しかし現実には息子の死に直面して、わたし自身どうしたらいいか途方に暮れていたのです。

そのときふとだれかの声をはっきり聞こえたように思いました。「どうしてそう心配するのですか？」それからわたしがついている、という意味のことを言われたのです。すごく不思議な経験でした。勇が亡くなっても、これまで調べた系図の先祖の方々が温かく迎えてくれる、息子と彼らが必ず会うということにこれほど強い安らぎと慰めを感じたのは初めてでした。一人霊界へ行っても寂しくはありません、霊界に行っても仕事はたくさんありますし、心配することはありません、だからあなたの仕事は家族歴史を調べ、ほかの方の系図を手伝い、神殿で奉仕することです……そうした答えを改めて頂いたように思います。

神権がもたらした祝福

手術の後、勇の最初の言葉は「お父さんは？ 祝福して」でした。毎日寝

る前に父親は祝福を授けました。父親が来られないときは、メルキゼデク神権を受けている長男が祝福しました。それは勇が亡くなるまで毎日欠かさず続けられたのです。それで神権のありがたみももっとよく分かりました。

その後、勇は脳溢血を起こし体に麻痺がきました。抗癌剤が脳にかかったため、普通めったに起こることではないそうです。そのためか入院中は先生が何でもかなり大目に見ていただきました。

彼が入院してからというもの月曜ごとに家族が欠かさず集まって家庭の夕べを行いました。家族の祈りと聖文勉強は家族で絶対しようと決めていました。勇の目も悪くなったので、スケッチブックに大きく歌詞を書いて歌いました。だから病院ではにぎやかにして申し訳ないくらいでした。セミナーを毎日して、神権者に来ていただいて聖餐も毎週受けました。ちゃんと賛美歌を歌ってお祈りをして聖餐を祝福して、今日こういう話があったと聞かせました。勇にとっては病院も家だったのです。麻酔科に教会員の先生もいましたし、教授回診のときも『モルモン書』を読んだりセミナーをやっていたりとこのびのびしたものでした。本人が要らないと言ったので、わたしは病院に泊まり込むことはせず、毎朝8時に着くように通いました。

あんなに病気で苦しんでいたのにそれでも信仰を保って、つらいとも痛いとも言ったことはありませんでした。先生は「痛みが出るはずなんだけどな」とおっしゃっていましたが、勇の場合、痛みがなかったようです。それはたぶん、本人の希望もあって亡くなるまでお父さんが毎日神権の祝福をしたり、先生に特にお願いして毎日朝から眠る

まで家族が付き添ったり、退院してからは24時間家族とともにいたりしたからです。痛みは心から出ると本で読みました。心が満たされていると痛みをあまり感じないのだそうです。先生も「確かにそれはあります」とおっしゃってました。痛みを感じる神経が冒されていたのかもしれませんが、一度も痛み止めの注射を打ったことがありませんでした。意識もはっきりしていたので、聖餐も最後まで取ってました。抗癌剤を打つと白血球が落ちて通常は外出などできない状態になるのですが、大会のときも神殿参入のときも大丈夫で行くことができました。

楽しい日々

寝た切りの体でも好きな女の子がいたようです。鏡を見て自分でも知っていましたが、勇は麻痺により顔面の筋肉が固くなって表情がありませんでした。元気なときを知っている人は「こんなになって」と泣かれたりもしましたが、家族も教会の人も「勇は外見が変わっても中身は一緒だよ」と言ってたんですね。そういう本人の思いもあって、告白したんです。その女の子も、伝道に出るつもりだからおつきあいはできないけれど、と言いつつ付き添いに来てくれました。「だいじょうぶ？」って。年頃ですから、あれはいちばんの励ましでした。勇は自分に対して恥ずかしいという気持ちがなかったんです。そういう気持ちは、障害者の方もご家族もみんな持ってほしいと思います。

やがて腫瘍が大きくなり、再入院させるかどうか迷って本人に聞くと、家にいたいと言いました。それで看護婦さんや先生に来ていただいて家で看病することにしました。悪くなった時点で入院するという話もありましたが、

勇が家にいたいと言ったので息を引き取るまで家で看病しました。お兄ちゃんやお姉ちゃんの友達も多かったので、いろいろな人が来てくれて、遊んだりマッサージをしたりとよくしてもらいました。勇の余命が分からないと知った次女は、1年半の伝道を繰り上げて帰還し、看病をしました。昼間はわたしと娘がつき切りで、夜になり学校や仕事から家族がそれぞれ帰って来ると、勇の周りに集まってマッサージをしたり話をしたりしました。教会の友達もしょっちゅう来てくれました。わたしが、この世の命が取り上げられてもいいの？ と尋ねると「うん、それはそれでしょうがないと思う」と答え、御心みこころを受け入れられるようにというお祈りを毎日していました。

勇は次第に体も動かせず、目も耳も不自由になってきました。体は鉛みたいに重いはずだと先生がおっしゃいました。それでも勇との日々はわたしにとって楽しい思い出ばかりなのです。発病する以前、勇はボーイソプラノのきれいな声でしたので、頼まれていろいろな所で歌ったこと。それからセミナー・グラブプリに車いすあんしゆで出席したこと、神殿で身代わりのあかしがひ接手を受けたこと。また証会で証したり、祭司にも聖任されました。神殿には、本人の希望で治療中の95年から96年の間に2回ほど行きました。勇にとって、元気なころに毎月入っていた神殿は行って当たり前前の所だったのです。

また保育園の保母をしている三女がクリスマスに劇をするために何かアイデアがないかと言っ

たとき、勇がお話を考えて絵本を作りしました。三女の友達で絵本を勉強している人が来てくれてどういう文にしようかと話し合い、ワードの絵の上手な男の子に絵を付けてもらって本にしました。96年12月のことです。そのお

話の劇が上演された日、勇は、サンタクロースの服を着て保育園へ行ってクッキーを一人一人に手渡しました。防衛医大病院にもお世話になったので回りました。ああいう体でも勇に伝道をさせてやりたいと思っていましたから。

退院して家に帰って来て、最後には自分で体を支えられなくなり話ができなくなってからも、勇は、いつも寝息を立てるまで家族みんなのそばにいました。

信仰の模範

そうして家族に見守られながら息を引き取ったのです。そのとき、勇はほんとうに霊界へ行ったとみんなが感じました。1997年2月、16歳でした。

我が家で勇の遺体を棺に入れるとき、わたしには、霊体の勇が遺体のそばにここに笑って立っている姿が見えました。亡くなる前は顔面の筋肉が麻痺して表情を作れなかったで、その笑顔はわたしにとって強い慰めでした。監督の手引きに、助かるなら治療してよいが、治らないなら死は祝福であると書いてあります。神様のもと楽しい所、だから悲しむことはない、と知りました。

わたしの家族からは今、4人伝道に出ているという感じです。家族で祈るとき、勇も霊界で神様の助けを受けて伝道できるようにと願っています。勇は祭司になってその週に亡くなりましたが、神殿に問い合わせるとすぐに儀式ができるということで、伝道に行く直前の長男が身代わりのエンダUMENTを受け



ました。エンダUMENTの部屋に座っているときに、勇が来ていることを強く感じました。日の栄えの部屋へ入るときも、勇がついて来ている、ここにいる、と娘もわたしも強く感じたのです。勇がもう長くないと分かってから、救いの計画がより具体的に分かりました。普通でしたら寂しいという気持ちもあるでしょうが、死ぬときまではっきりと信仰を全うして勇に会うという希望を持つようになりました。疑いはまったくなくて、きっと会えるんだという気持ちが家族みんなにあります。勇は家族にとって信仰の模範なのです。

家族歴史がつなく家族のきずな

勇が亡くなってから家族歴史をやると思っていたとき、夢に先祖たちが白い衣を着て出て来ました。周りが京都の風景だったので京都の先祖だと分かりました。白い服の人がみんな恐い顔をして鎖のある所を一行に歩いていました。話しかけてもだれも聞いてくれないのでやめようかと思ったとき、一人の人が「もっと話しかけてください」と言いました。

夢の意味は分かりませんでしたが、早く儀式を受けてほしいということだったようです。贖本のいちばん上の人に京都府京都郡からお嫁に来た人がいて、詳しいことも調べたいと思っていました。一時期わたしたちと同じワードにおられた姉妹の助けで、彼女の、京都の伏見ワードに所属する妹さんのお宅にお世話になることができました。そこはわたしの本家から歩いて5分ほど



石坂ご家族。後列左から長女の真理姉妹、二女の由美姉妹、三女の千恵姉妹、長男の誠兄弟、二男の勇兄弟、四女の恵理姉妹。前列にお父さんの晃一兄弟とお母さんの春美姉妹。

の所で、ほんとうに助かりました。また石屋さんが、探しているお墓を知っているという連れて行ってくださるなど、様々な方法で調べることができました。訪ねた多くの方は100年以上昔の人が親戚に当たるだけで深い関係はありません。それが息子や夢のことを話ただけで、位牌や過去帳を見せてくださいました。勇に助けられていると感じました。また傍系の系図を家族ファイルとして提出したとき、同じ名前がすでに別の教会員の方から出ており、共通の先祖を持つことが分かりました。その家族の姉妹と連絡を取り、一緒に系図旅行に出かける機会もありました。今は自分の家の系図は娘がやっていて、わたしはほかの人のものを手伝っています。

家族歴史とはこんなふうに関係のきずなや教会員の兄弟姉妹とのきずなをはぐくみながら調べていくものだと思います。2世の教会員は「親がやっています」という人が多いですが、通常、親は先に死にますので子供も知っておくべきだと思います。我が家では子供が学校の自由研究として系図表を持って行ったりもしました。また子供たちが伝道に出て、お年寄りと話するとき「先祖がいるから改宗できない」と言われても「うちの両親は系図を調べている」と言って自分の系図を見せ、「こうしてわたしたちも神殿で先祖供養をしている」と証できるのです。たとえ若くても自分の経験から伝えられます。若い人には家族歴史活動を経験してから伝道に出ることをお勧めします。2世

で直系をすでに親が終えている場合は傍系を調べたらいいと思います。

家族で系図を調べるとき、エリヤの霊を感じます。わたしが相手方と話している間に娘たちが過去帳や位牌を写します。系図旅行から帰っても娘たちが情報を整理してくれます。二女は同世代の若い人たちに「うちの家族ファイルがあるから儀式を受けてくれない?」と誘って神殿に入ったりしています。エンダウメントに入れる人にもお願いしツアーを組んで参入しています。また娘もわたしたち夫婦も神殿で奉仕しています。主の業においては、家族のきずなを強めることも、家族歴史、神殿、伝道もすべては一つなのです。(いしざか・はるみ ステーク扶助協会会長)

家族歴史3 キャンペーン

地域家族歴史アドバイザー
津村又三郎

わたしたちは先祖から血統を受け継いでここにいます。そしてここから教会員として子孫が増えていくのですから、わたしたちはとても大事な立場にいるのです。そこでこれまで過去の記録を調べてきましたが、今度は未来に目を向け、個人の歴史書や日記などでわたしたち自身が開拓者として子孫に記録を残すことを考えていきましょう。

その一つの方法として提案したいのが15ページの年表なのです。これはダイジェスト版で作ってありますが、もっと詳しい世界史、日本史、教会史、日本の教会史などに自分の個人の年表を並記してみます。現在から始めて、50年か30年単位でシートを作りつなげて行けば、家族の150年なり200年くらいの歴史ができます。そのころ世界でどういうことがあって、日本ではその当時何があって自分の先祖にはどんな人がいたか。あるいはずっと下って

わたしたちの 開拓者を訪ねて

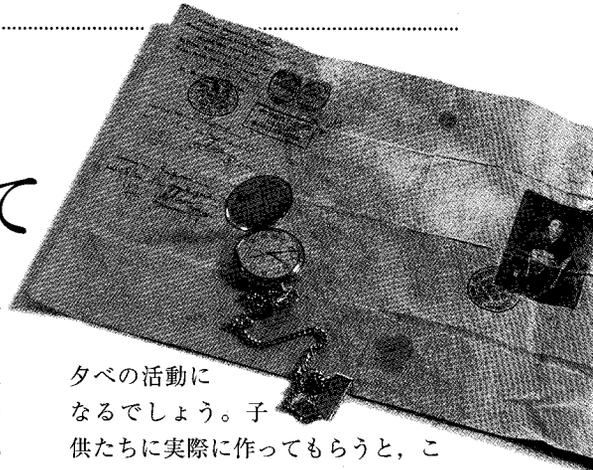
子供たちに託す家族歴史

1920年代にわたしが生まれた、このとき父親と母親が結婚した……そういうふうに関連させていくといろいろなものが見えてきます。視野が広くなり、過去の歴史と現在の生活がつながってきます(『聖徒の道』1998年1月号、131参照)。記録を提出するだけではない生きた歴史を今度は子供たちに引き継いでいくのです。15ページの年表は一つの取っ掛かりとして、歴史を概観する目録か索引のようにお使いになってはいかがでしょうか。

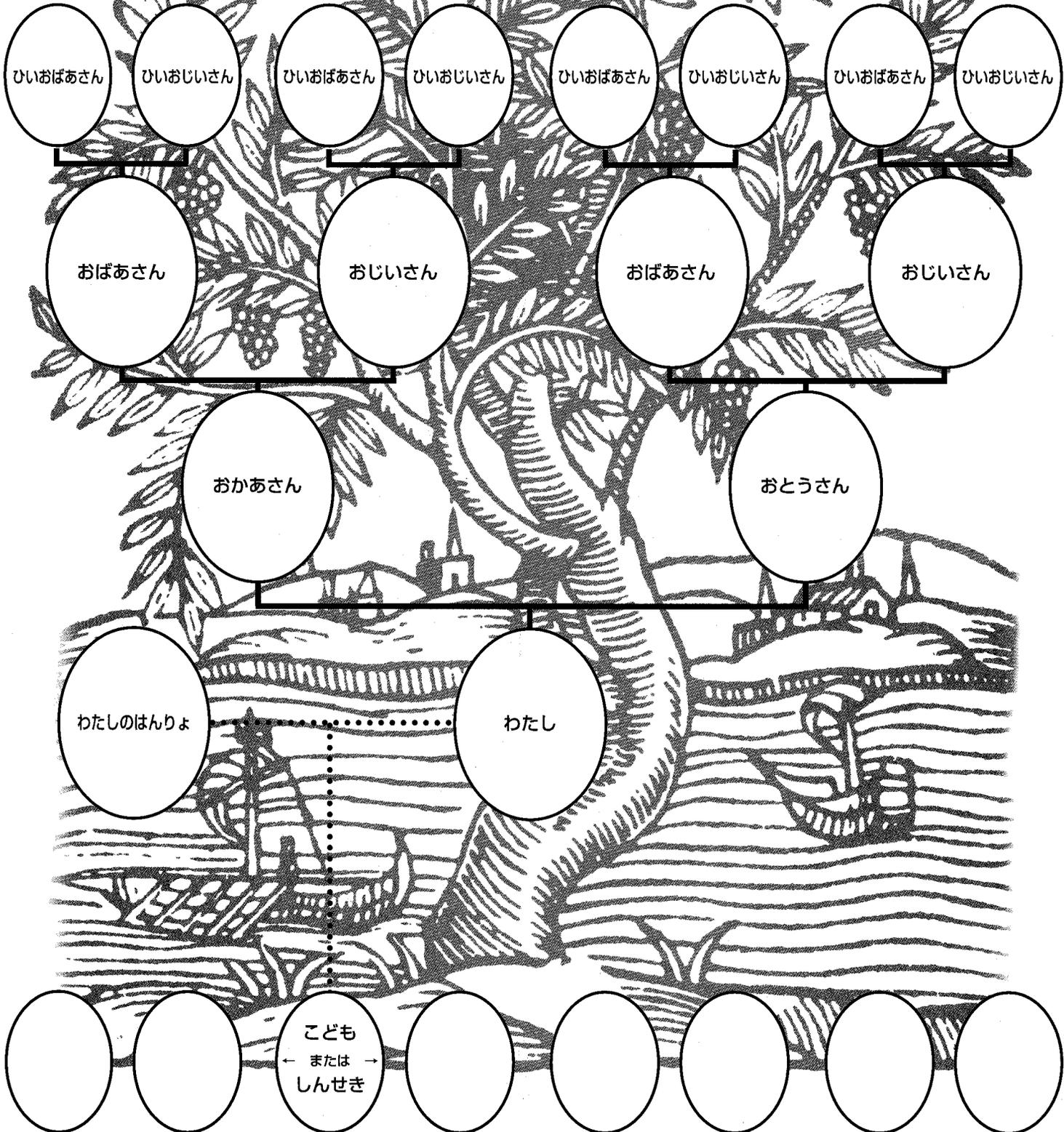
それから写真集です。おじいさん、おばあさん、また親戚の人たちの写真を集めて、次頁のような写真による系図表を作ってみます。ここに掲載したものは直系4代分ですが、傍系なども網羅したオリジナルの表を作ってもいいですね。イラストの得意な子供たちに参加してもらってみんなで手描きの「家族の木」を作ると、格好の家庭の

夕べの活動になるでしょう。子供たちに実際に作ってもらくと、この人は自分とどういう関係なのかよく理解できて、家族のきずなをもっと強めるのに役立つのではないかと思います。そして家庭の夕べを強化して、家族の伝統を作っていく。例えば家宝を作ります。この写真集「家族の木」なども家宝の一つになりますし、お父さんが最初に改宗したとき使った『モルモン経』だとか、ハワイの神殿に行って買って来た記念品だとか探せばいろいろあることでしょう。

また1世のご両親がひととおりの記録の提出を終えていたとしても、子供たちと共同で何年かに一度定期的に見直し、亡くなった方があれば儀式をしましょう。家族の歴史ですから、家族とともに探求することが大切なのです。(つむら・またさぶろう)



わたしの家族の木



わたしの家族歴史

世界歴史年表

教会歴史年表

1870

1900

1930

1960

1990

1840~42年 アヘン戦争
1842年 南京条約

1844年 オランダ国王、日本に開国を通告
1845年 イギリス船、長崎に来航
1846~48年 アメリカ・メキシコ戦争

1848年 カリフォルニアで金鉱発見、ゴールドラッシュ始まる
1853年 アメリカ使節ペリー、浦賀に来航
1861~65年 アメリカ南北戦争、黒人奴隷解放宣言
1868年 明治維新

1869年 アメリカ大陸横断鉄道がユタ州まで敷設される
スエズ運河開通

1889年 大日本帝国憲法発布

1894~95年 日清戦争
1898年 アメリカ、ハワイを併合 米西戦争

1902年 日英同盟協約調印

1904~05年 日露戦争

1910年 日韓併合

1912年 中華民国成立 明治天皇崩御

1914~18年 第一次世界大戦

1917年 ロシア3月革命・11月革命、レーニンがソビエト政権成立

1923年 関東大震災
1926年 大正天皇崩御
1929年 世界経済が大恐慌に突入

1933年 ヒットラー、ドイツ首相に就任

1937年 盧溝橋事件、日華事変始まる

1939年 第二次世界大戦勃発

1941年 日本軍、真珠湾を攻撃 太平洋戦争勃発

1945年 広島・長崎に原爆投下 第二次世界大戦終結

1946年 日本国憲法公布

1949年 北大西洋条約機構 (NATO) 調印
ドイツ連邦共和国 (西ドイツ)・ドイツ民主共和国 (東ドイツ) 成立 中華人民共和国成立

1950~53年 朝鮮戦争

1959年 キューバ革命政府成立

1960年 日米新安全保障条約調印

1960年 ベトナム戦争始まる

1964年 東海道新幹線開通

1965年 米軍の北ベトナム爆撃 (北爆) 始まる

1966年 中国・プロレタリア文化大革命始まる

1968年 ソ連・東欧諸国軍、チェコに侵入
ベトナム和平パリ会談
米軍、北ベトナムへの爆撃全面停止

1969年 宇宙船アポロ11号、人類初の月着陸に成功

1972年 沖縄が日本に復帰 日中国交回復

1973年 ベトナム和平協定調印 第一次石油ショック

1975年 サイゴン陥落、ベトナム戦争終結

1978年 日中平和友好条約調印

1979年 第二次石油ショック 東京サミット開催

1980年 イラン・イラク戦争始まる

1982年 フォークランド紛争

1983年 大韓航空機撃墜事件

1986年 チェルノブイリ原発事故

1989年 昭和天皇崩御 ベルリンの壁が崩壊 中国 天安門事件

1991年 湾岸戦争 ソビエト連邦が崩壊 東西冷戦の終結

1995年 阪神大震災 米・ベトナム国交正常化

1997年 香港、中国へ返還

1841年 ノーブー神殿の建設開始、初の「死者のパテスマ」
1842年 扶助協会を創立、初の「エンダウメントの儀式」
1844年 ジョセフ・スミス、ハイラム・スミスの殉教
ブリガム・ヤング、第2代大管長に召される
1845年 ノーブー神殿における最初のエンダウメント
1846年 出ノーブー始まる ノーブー神殿を公式に奉獻
対メキシコ戦争のためモルモン大隊が召集される

1847年 西部への移動、ソルトレーク盆地に入植始まる

1856年 ウィリー手車隊・マーティン手車隊の遭難

1860年 最後の手車隊、ソルトレークに到着

1877年 セントジョージ神殿奉獻

1878年 初等協会が組織される

1880年 ジョン・テラー、第3代大管長として支持される

1889年 ウィルフォード・ウッドラフを第4代大管長として支持

1890年 「公式の宣言」により、多妻結婚の中止が宣言される

1893年 ソルトレーク神殿を奉獻

1898年 ロレンソ・スノーを第5代大管長として支持

1899年 スノー大管長、啓示を受け自分の一の教えを強調

1901年 ヒーパー・J・グラント、日本を奉獻、日本伝道部を開設
ジョセフ・F・スミスを第6代大管長として支持

1906年 教会が負債から解放される

1908年 アルマ・O・テラーによる『モルモン経』最初の
日本語訳が完成

1915年 スミス大管長「家庭の夕べ」の重要性を強調する

1918年 スミス大管長「死者の働いたに関する示現」を受ける
ヒーパー・J・グラントを第7代大管長として支持

1919年 ハワイ神殿が奉獻される 会員数が50万人に達する

1924年 総大会の様子が初めてラジオで放送される
日米関係の悪化により日本伝道部を閉鎖

1930年 教会設立100周年を祝う

1937年 ハワイの日系人社会において伝道部が再開

1939年 第二次世界大戦勃発に伴い、ヨーロッパから宣教師が
引き上げる

1945年 ジョージ・アルバート・スミスを第8代大管長として支持

1947年 ユタ開拓100年祭を開催 会員数が100万人に達する

1948年 東京にて日本伝道部が再開

1951年 デビッド・O・マッケイを第9代大管長として支持

1955年 スイス神殿を奉獻

韓国・沖縄地区を含む北部極東伝道部が組織される

1957年 佐藤龍雄の翻訳による『モルモン経』「教義と聖約」
「高価なる真珠」が発刊

1961年 新・神権コリントリージョンプログラムを導入

1962年 神権ホームティーチングプログラムを初めて紹介

1964年 神権役員会、ワード評議会が始まる

家庭の夕べプログラムが改めて強調される

日本最初の教会堂 (東京北支部) が奉獻される

1967年 最初の地区代表が召される 会員数が250万人を超える

1970年 ジョセフ・フィールドینگ・スミスが第10代大管長に
アジアで最初のステークが東京に組織される

大阪万博のモルモンビルに660万人が訪れる

アドニー・Y・小松が日系人で最初の中央幹部となる

1971年 会員数が300万人を超える

1972年 ハロルド・B・リーを第11代大管長として支持

1973年 スペンサー・W・キンボールを第12代大管長として支持

1976年 二つの啓示が聖典に加えられる

1977年 菊地良彦が日本人最初の中央幹部に召される

1978年 すべてのふさわしい男性に神権を授ける啓示が明らか
にされる、承認人名抄出プログラム導入

1980年 安息日の3時間プログラム導入 東京神殿が奉獻される

1982年 会員数が500万人を超える

1984年 地域会長会が任命される、台湾台北神殿が奉獻される

1985年 エズラ・タフト・ベンソンを第13代大管長として支持
韓国ソウル神殿が奉獻される

1991年 アジア地域から独立してアジア北地域が組織される

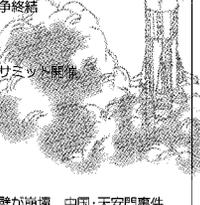
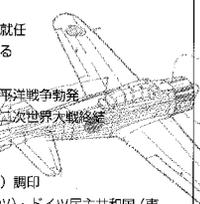
1994年 ハワード・W・ハンターを第14代大管長として支持
東ロシアがアジア北地域に編入される

ウラジオストク支部を開設

1995年 ゴードン・B・ヒンクレーを第15代大管長として支持
日本語版『モルモン経』「教義と聖約」「高価なる真珠」
が発刊

1996年 ゴードン・B・ヒンクレー大管長が日本を訪問

1997年 開拓者150年記念世界奉仕日を実施
会員数が1,000万人を超える



専任宣教師

1998年7月(226期生) 10人, 海外3人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



うちだ ひであき
内田秀明
神戸伝道部
我孫子ステーキ
水戸ワード



ジェレド・せいじ
ジェレド・誠治
ワナー
名古屋伝道部
本州軍人地方部
横須賀軍人支部



たかばやし しょう
高林 頌
福岡伝道部
東京東ステーキ
小岩ワード



こばやしひろゆき
小林弘幸
福岡伝道部
名古屋西ステーキ
高畑ワード



たか た としゆき
高田俊之
仙台伝道部
岡山ステーキ
倉敷ワード



たなか まいこ
田中麻衣子
名古屋伝道部
札幌ステーキ
旭川第2ワード



こいけ めぐみ
小池めぐみ
福岡伝道部
我孫子ステーキ
牛久ワード



せき とじゆんこ
関戸純子
福岡伝道部
仙台ステーキ
山形ワード



からかわじゆんこ
辛川順子
仙台伝道部
熊本ステーキ
熊本ワード



たか き ゆき
高木由紀
名古屋伝道部
大阪堺ステーキ
泉南ワード



ほん だ ようすけ
本田陽介
ソルトレーク・
シティー伝道部
町田ステーキ
町田第1ワード



なかはら りえこ
中原利枝子
ハワイ・
ホノルル伝道部
神戸ステーキ
西宮ワード



かとうまさこ
加藤雅子
ハワイ・ホノルル伝道部
ハワイ神農訪問者センター
我孫子ステーキ
北千住ワード

ブックセンターだより

木製フレーム

チェリー材 カタログ番号80125

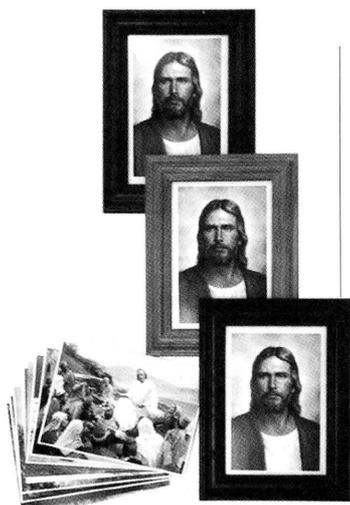
オーク材 カタログ番号80127

ウォルナット材 カタログ番号80128

各127×178mm 定価700円

●新製品

「イエスさまと子供たち」「イエスのパプテスマ」「最初の示現」「ゲツセマネの祈り」「マリヤと復活された主」「再臨」など各種教会絵画カード(別売)が入れ替え可能な木製フレーム(「イエス・キリスト」のカード付き)。縦でも横でも使用できます。プレゼントに好適。



役員の変動

1998年7月4日から7月31日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 長野地方部
第一副部長: 古原 勲
第二副部長: 松橋晴海
- 三重地方部
第一副部長: 樋口茂治
第二副部長: 川満勝一
- 長崎地方部
第二副部長: 相浦真範

皆さんの原稿を募集しています

◎「チャーチ・ニュース」では、現在の以下のテーマについての記事を募集しています。

●祈りに関する証

1998年10月16日必着で、可能であれば写真を同封の上、下記までお寄せください。

◎その他、一般のご投稿も歓迎いたします。

◎ご投稿の際には連絡先(住所・電話番号・ファックス番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、できれば写真(投稿者または投稿内容に関連するもの)を同封のうえお送りください。頂いた原稿の採否は国語ニュース委員会(Language News Commtity)にゆだね、公正に検討させていただきます。なお、お送りいただいた写真、原稿は原則として返却いたしません。返却ご希望の際は編集室までご一報ください。また採用された原稿は編集の際、要約や手直しをさせていただきますことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、MTC入所予定月を明記)

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275